



**RIKEN TECHNOS**

リケンテクノスグループ  
RIKEN TECHNOS GROUP

# CSR報告書

Corporate Social Responsibility Report

# 2012



リケンテクノス株式会社

# 編集方針

リケンテクノスは2002年10月に「環境報告書」を、2005年よりこれを「環境経営報告書」として、環境に主眼をおいた企業としての取り組みと成果を公表してまいりました。2007年度からは社会的側面を含め「CSR報告書」とし、企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)の観点からリケンテクノスグループの経営理念実現に向けた取り組みと成果をわかりやすく報告することを心がけています。

「CSR報告書」の第6号となる本報告書は、「躍進するアジア」と題して、アジア地域でのリケンテクノスグループのあゆみを中心にご紹介いたします。

## 報告書の対象範囲

### 報告対象期間

2011年4月1日～2012年3月31日

なお、本報告書には一部2012年度の活動内容も含んでいます。

### 報告対象範囲 (所在地は12～13ページをご覧ください)

本報告書における環境報告の対象範囲は、リケンテクノス株式会社およびそのグループ会社下記14社です。項目によってはグループ会社を含まない場合もあります。

### 対象グループ会社名

- 進興電線株式会社
- 株式会社協栄樹脂製作所
- カネコン商事株式会社
- エムアイ化成株式会社
- リケンタイランドカンパニーリミテッド
- PT. リケンインドネシア
- 上海理研塑料有限公司
- 理研食品包装(江蘇)有限公司
- リケンU.S.A. コーポレーション
- リムテックコーポレーション
- リケンエラストマーズコーポレーション
- リケンテクノスヨーロッパB.V.
- 理元(上海)貿易有限公司
- リケンエラストマーズタイランドカンパニーリミテッド

### 報告対象分野

本報告書はリケンテクノス株式会社およびグループ会社の経営・社会・環境に関する取り組みを報告しています。



## 参考にしたガイドライン

本報告書の構成については、2007年6月環境省発行の「環境報告書ガイドライン(2007年版)」および2005年2月環境省発行の「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に作成しました。

## 発行時期

2012年10月(次回発行予定 2013年10月)

### 発行経歴

年度	発行年月	名称
2002	2002年10月	環境報告書
2003	2003年 9月	//
2004	2004年10月	//
2005	2005年10月	環境経営報告書
2006	2006年10月	//
2007	2007年10月	CSR報告書
2008	2008年10月	//
2009	2009年10月	//
2010	2010年10月	//
2011	2011年10月	//

### 表紙について

リケンテクノスのコーポレートマークとPT. リケンインドネシアのあるインドネシアの国花である「胡蝶蘭」を融合しました。

コーポレートマークは2001年の創立50周年を機に社名変更と同時に一新したもので、RIKEN TECHNOSの“R”をベースに、コア事業であるコンパウンドとフィルムのイメージを組み合わせ、信頼感を表し、未来へ羽ばたくしなやかな翼の形を表現しています。

リケンテクノスグループは、持続可能な社会の実現をステークホルダーの皆様とともに考え、行動していきます。

# 目次

## 編集方針

トップメッセージ	4
----------	---

<b>特集</b> 躍進するアジア	6
-------------------	---

## リケンテクノスグループの概要

リケンテクノスグループ概要	10
国内・海外ネットワーク	12
製品のご紹介	14
コーポレートガバナンス	16

## 社会性報告

お客様とのかかわり	18
株主様とのかかわり	21
お取引先様とのかかわり	22
地域のみなさまとのかかわり	24
従業員とのかかわり	27

## 環境報告

環境管理活動	32
活動結果の概要	34

有識者の意見	41
--------	----

編集後記	41
------	----

# “災害を乗り越え、チャレンジし続けます”



リケンテクノス株式会社  
代表取締役社長

清水 浩

## グローバル化とリスク分散

### グローバル化

リケンテクノスが海外市場を見据えコンパウンド製品の輸出を開始したのは、今から50年以上前のことです。手探りの中、海外への進出に挑戦し、1989年タイに初めての生産拠点を設立して以降の当社の発展は、アジア抜きには考えられません。アジアの目覚ましい経済発展に伴い、高まる塩ビ製品の需要に応えるべく努力してまいりました。その結果、アジア諸国の発展と共に、当社も世界市場の中で大きな地位を占めることができるようになりました。

そして、今後も成長の続くアジア諸国に「豊かさ、安心、快適」を届け、お互いに成長することがわたしたちの願いです。

### 安定供給への取り組み

昨年の2011年は、3月の東日本大震災、10月のタイでの大洪水など、日系企業にとって大きな被害を及ぼす大災害が発生しました。当社が直接的被害を受けたのは、タイの大洪水によるもので、RIKEN (THAILAND) CO.,LTD.が水没し、約4ヶ月の操業停止に追い込まれる事態となりました。この間、特に問題となったのは、医療用コンパウンドの供給でした。医療用コンパウンドの生産設備は日本とタイの2箇所にしかなく、大半をタイで生産していたため、必要数量を確保するのが厳しい状況でした。人命に係わる製品だけに、急速タイからも従業員を呼び寄せ、日本で代替生産を行い、なんとか供給責任を果たすことができました。グローバル化が進むにつれ、想定外の災害に対するリスク分散をいかに図るかが益々重要となってきています。当社でも社会的要請の高い製品について安定供給を果たすべく、今回の件を反省し、ただちに、インドネシアのPT.RIKEN INDONESIAに医療用コンパウンド製造ラインの新設を決定し、来年の春の稼働に漕ぎ着けております。今後も、BCPへの取り組みをさらに強化してまいります。

### 「きちんと開発し、しっかり造り、ちゃんと売る」

リケンテクノスグループは今後もグローバル化を推し進め、効率化を図っていきますが、想定外の災害、政治不安などに備え、しっかりとリスク分散を行っていきます。その上で、平時において何よりも私たちが大切に取組んでいくべきことは、「もの造りの原点」に立ち返り、「きちんと開発し、しっかり造り、ちゃんと売る」ことです。このことを実践することで、お客様からの信頼を得ることができ、有事の際にも苦難を乗り越え共に発展していくことができるのです。

これからも、私たちはお互いの「信頼感」をベースに、お客様と共に問題解決に取り組み、豊かさ、安心、快適を創り出すべく、挑戦し続ける所存でございます。

### 特集は、「躍進するアジア」

タイの大洪水では、奇しくもいかに多くの日系企業がタイに進出しているかを浮き彫りにしました。アジア市場の成長は、今でも目を見

張るものがあります。前述の通り当社の本格的なアジア進出は、今から23年前の1989年にタイで設立したRIKEN (THAILAND) CO.,LTD.に始まります。現在ではタイ、中国、インドネシアに5箇所の生産拠点を設け、売上高・現地雇用者数、共に順調に伸びています。これらの拠点は、まさにアジア諸国と共に発展し、現地に根ざした企業活動を行ってきています。現在の拠点はリケンテクノスグループの核となる生産拠点であり、今後はインドや中南米を見据えた動きも活発化させていきます。本号の特集では、「躍進するアジア」と題し、リケンテクノスグループのアジアでの活動の歴史と今後の飛躍について、ご紹介いたします。

## 新経営理念「リケンテクノス ウェイ」

昨年の60周年を機に完成された「リケンテクノス ウェイ」は、この1年の間に徐々に社員に浸透しつつあります。タイの洪水被害の時は、リケンテクノスグループ全体が一丸となって「リケンテクノス ウェイ」を実践できた良い例といえます。当時は「信頼しあい貢献しあう」を合言葉に、社員がそれぞれの現場で、役割を果たすことができました。私はこのような社員を心から誇りに思います。そして、RIKEN (THAILAND) CO.,LTD.の復興を支援してくださったすべてのステークホルダーの皆様へ御礼を申し上げますと共に、これからも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### ミッション (会社の使命・存在意義を表します。)

私たちは科学の力で豊かさ、安心、快適を創り出す  
チャレンジメーカーです  
独創的で卓越した  
樹脂素材の配合加工技術で  
企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます

### コア・バリュー (基本的価値観を表します。)

信頼しあい貢献しあう  
新しい価値を生み出す  
常に挑戦し成長する  
仕事を楽しみワクワクする  
共に解決し共に喜ぶ

## 経営の基本方針

私たちは「チャレンジメーカー」です。

「リケンテクノス ウェイ」を基盤とし、技術を柱に、技術本部・製造本部・営業本部が三位一体となった取り組みを推進します。具体的

には、高い加工技術を活かした高付加価値の事業体質づくりを目指し、一層のグローバル戦略を推し進めます。リケンテクノスグループが造る、高品質で、高機能な製品を、世界のより多くの顧客に提供することを目指します。常識にとらわれず挑戦することが、私たち「チャレンジメーカー」としての使命です。

## 環境に関する経営方針

### 適切な化学物質管理

リケンテクノスグループは、化学物質管理に関する諸法規・諸規制を遵守します。また、自ら基準や目標を定め、より高いレベルでの環境管理を行います。

### 環境負荷の低減

環境に配慮した製品開発や生産からお客様にお届けするまでのあらゆる場面で、環境負荷低減を目標にした取り組みを行い、廃棄物や二酸化炭素排出量の削減など、地球環境保全への貢献を目指します。

### 情報開示

リケンテクノスグループのこうした取り組み状況と成果を積極的に開示し、ステークホルダー、特に生産拠点のある地域住民の皆様からご理解を得るべく努力してまいります。

### リケンテクノスグループCSR報告書

本報告書はリケンテクノスグループの理念実現と社会的責任に対する様々な取り組みとその成果をまとめたものです。

本報告書を通じて当社グループの取り組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をお寄せいただけますようお願いいたします。



リケンテクノス株式会社 取締役、および監査役

## 特集

# 躍進するアジア

- 理研食品包装(江蘇)有限公司
- 上海理研塑料有限公司
- 理元(上海)貿易有限公司

RIKEN ELASTOMERS (THAILAND) CO., LTD.

● RIKEN (THAILAND) CO., LTD.

PT. RIKEN INDONESIA

● 製造会社 ● 販売会社

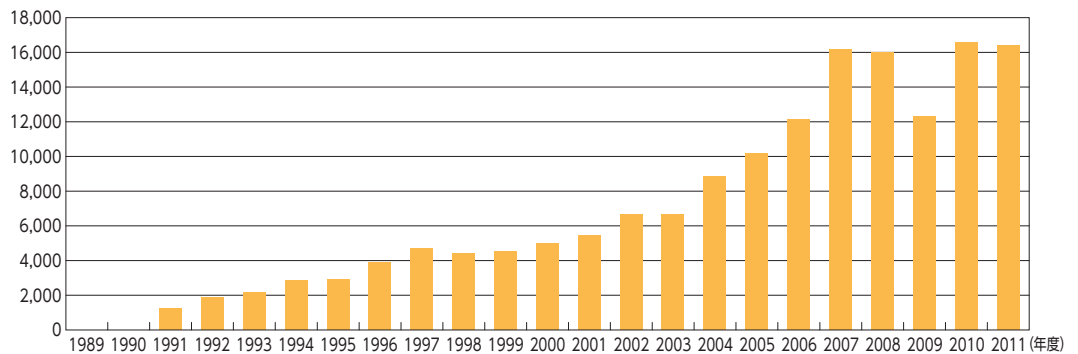
2012年10月1日現在

## 貢献と飛躍

リケンテクノスのアジアへの本格進出は、1989年設立のRIKEN (THAILAND) CO., LTD. がスタートです。以来、この23年あまりの間にタイ、インドネシア、中国に5つの生産拠点を含め、6つの拠点を設けています。それぞれが、現地の特色に合わせた企業活動を行い、各国の発展に貢献しているものと自負しています。これからも、リケンテクノスグループは、「科学の力のチャレンジメーカー」として、アジアの国々と共に成長していきます。

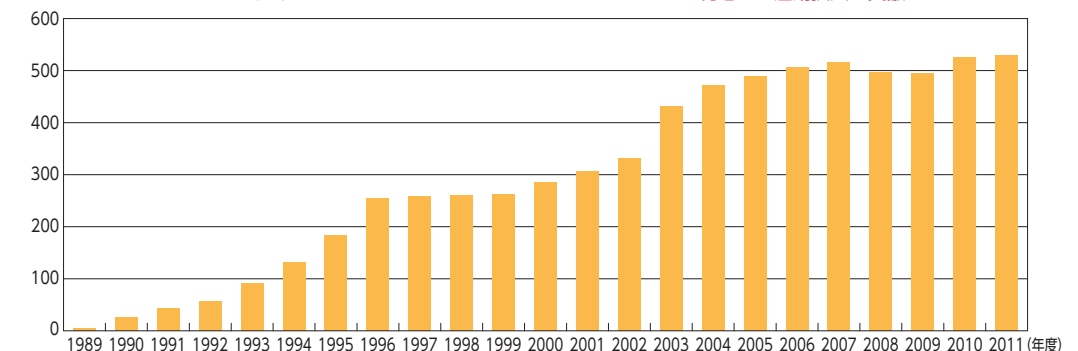
### ● アジア拠点の売上高推移 (単純合算) (百万円)

アジア地域の売上は順調に推移しています。



### ● 現地採用従業員推移 (人)

現地での雇用拡大に貢献していきます。



## RIKEN (THAILAND) CO., LTD.

設立：1989年 出資比率：40% 資本金：1億2千万タイバーツ  
 主な業務内容：塩化ビニルコンパウンドの製造・販売



現地従業員の皆さん

### アジアのデトロイト化を目指すタイの国策へ貢献

### 洪水被害を乗り越え、東南アジアの最重要拠点として飛躍を目指します

リケンタイランドはリケンテクノスのアジア初の塩ビコンパウンド製造・販売拠点として、1989年に設立され、間もなく23年になるうかとしています。医療用塩ビコンパウンドを中心として順調に立ち上がり、現在でもアジア地区唯一の医療用塩ビコンパウンドの供給拠点として、重要な役割を担っています。2000年代初頭からは、タイの国策である『アジアのデトロイト化』構想の一翼を担うべく、自動車産業への貢献も果たしてきました。

たった4人の従業員でスタートしましたが、現在では約230人にまで増え、当社の位置するバンコク北郊のパトゥンタニ地区と共に発展してまいりました。2009年には、社内奨学金制度を取り入れ、社員の成績優

秀な子供達には奨学金を出しています。どこの国でも子供達は国の財産であり、教育奨励の一助になればと思っています。

この23年の間に、90年代後半の通貨危機、など苦難に直面しましたが、中でも、忘れもしない昨年2011年10月20日、リケンタイランドは洪水被害を受け、水没しました。悪夢のような天災に襲われましたが、水が引いた12月初旬から復興に努め、翌年の2012年2月10日には一部生産を再開し、翌3月には全量産ラインが復旧いたしました。販売面での復活はまだ道半ばですが、この苦難を乗り越え再び力強く成長軌道に乗る事を確信しています。地域と共に、従業員と共に発展しタイ国およびアジアの発展に貢献していきたいと思ひます。

Managing Director：箕輪 行晃



エントランス



製品の塩ビコンパウンド



医療用コンパウンドが使用された医療機器



ソングラン (タイの正月) お祭り

洪水復旧大清掃の炊き出し



清水社長が陣頭に立つての復旧作業



倉庫の復旧作業



作業後



## PT. RIKEN INDONESIA

設立：1995年 出資比率：62% 資本金：5,700千ドル  
 主な業務内容：塩化ビニルコンパウンドの製造・販売



前列左：興水工場長 右：横橋社長

### インフラ整備への貢献を引き続き行っていきます 今後は、医療用製品への供給責任も果たしていきます

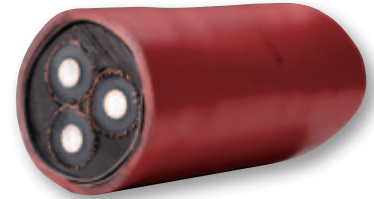
PT. RIKEN INDONESIAは、1995年4月に会社設立後、既に17年が経過しており、その規模も徐々に拡大し、今では従業員150名を抱える、インドネシアで最大の塩ビコンパウンド生産能力を持つ会社に成長しました。インドネシアのコンパウンド製品業界では、「RAPINDO」という通称で親しまれ、当社のコンパウンドの品質の良さは広く知れ渡り、中でも高機能コンパウンドは、特に高い評価を得て、注文を多くいただけるようになって来ております。



電力ケーブル

インドネシアは1998年のアジア通貨危機、その後のスハルト政権崩壊、そして民主化。2008年のリーマンショック、と様々な政治・経済不安を乗り越え、着実な成長を続けております。

現在インドネシアは、2億4千万人の人口と東西5千キロに及ぶ広大な国土を有しますが、まだまだ道路も含め、インフラが行き届いているという状況ではありません。RAPINDOは、発電所建設に合わせ、電力ケーブル被覆材としての高品質の塩ビコンパウンドを多く供給し続け、電力インフラ整備に貢献させていただいております。また、自動車・2輪車の部材にも多く当社のコンパウンドが採用され、国民の生活基盤に関する製品にも深くかかわっています。今年も、日本、タイに次いで3番目の医療用塩ビコンパウンド生産拠点となるべく、工場建設に着手し、来春には生産出荷が可能になります。これからも、RAPINDOの企業活動がこの国の多くの人々に「豊かさ、安心、快適」を提供し続けられるよう努力を重ねてまいります。



RAPINDOの塩ビコンパウンドを使った電力ケーブル

社長：横橋 健

## 上海理研塑料有限公司

設立：2001年 出資比率：70% 資本金：7,500千ドル  
 主な業務内容：塩化ビニルコンパウンドの製造・販売



従業員の皆さん(中央左:寺川総経理)

### 高品質の製品を安定して供給いたします

上海理研塑料有限公司は、2001年8月に設立された塩ビコンパウンド生産拠点です。昨年は設立10年の節目を迎え、新規生産ラインの稼働が始まり、伸び続けるお客様のニーズに対応できる体制を整えました。ご承知のように中国は世界の生産工場と言われております。当社のコンパウンドは自動車用、電線用、ホース等生活産業資材用、家電用等、多岐にわたり対応しており、その商品は中国国内だけではなく全世界に展開されております。

当社は、上海市の虹橋国際空港から車で40分程という物流面で非常に優れた莘庄工業区にあります。従業員は100人ですが創業当初から

の従業員もおり、科長など重要なポストに就いております。また、従業員定着率も非常に高く、会社の風土は非常に良いと自負しております。当社は、リケンテクノスグループの一員として高品質のコンパウンドを安定供給する事は当然ですが、原材料現調化や効率の良い生産等によるコストパフォーマンスに優れた製品提案も行ってあり、お客様に好評価をいただいております。

特に最近の中国国内向け商品は、コストだけではなく品質の要求も高くなっております。これからも従業員一丸となり、品質とコストを兼ね備えたコンパウンドを提供し、中国およびアジア諸国の発展に寄与し続けたいと思います。

総経理：寺川 真澄



2011年11月11日上海理研設立十周年式典記念写真(社員97名)



サイドブレーキグリップ

自動車用三角窓

シール材



## 理研食品包装（江蘇）有限公司

設立：2003年 出資比率：92.6% 資本金：1,350万ドル  
 主な業務内容：食品包装用ストレッチフィルムの製造・販売



ビッグラップ®



渡総経理

### 安全、快適な暮らしを支えるリケンラップ

理研食品包装（江蘇）有限公司は中国江蘇省江陰市に2003年に設立された、業務用食品包装用ラップの専門メーカーです。従業員数は60名、中国国内はもとより、東アジア、アメリカ方面への輸出も行っております。当社の製品であるPVC業務用ラップは、リケンテクノスが長年培ってきた技術を用い、「日本品質の物を中国のコストで提供する」を目標に日々活動しております。

日本では当たり前になっている店頭でのトレーパック包装ですが、当社が設立された当時は中国ではまだスーパーが普及しておらず、市場で無包装で販売されているのが一般的でした。現在ではスーパーマーケット

トの普及に伴い、パックされた食品が一般的になってきました。

当社は成長著しい中国の中でもとりわけ発展している華東地区に位置しており、上海のみならず中国主要大都市への販売を行っております。従業員は、地元の出身者が多く、創業当初からの従業員の中には、管理職として登用されている人も多くいます。地元の皆様との係わりを大切に、行事にも積極的に参加しております。

理研食品包装は、これからもアジアの人々が安全・快適に暮らしているよう貢献していきます。

総経理：渡 政道

## 理元（上海）貿易有限公司

設立：2011年 出資比率：100% 資本金：500万人民币  
 主な業務内容：プラスチック製品の卸売り・輸出入



キャビネット用フィルム



左：関雪梅さん 中央：松浦総経理 右：李香紅さん

### 建材市場、自動車市場への拡販を目指します

理元（上海）貿易有限公司は、中華圏でのフィルム製品販売拡大のため、2011年6月設立した中国販売会社です。主要取扱製品は、建材用フィルム、FFC（フレキシブルフラットケーブル）用フィルム、光学用フィルム、鋼板用フィルムです。

建材用フィルムは、欧米向けキッチン家具用途に20年以上の実績ある真空成型シートを、中国市場にマッチした高意匠商品として特徴付けることにより、ご愛顧いただいております。

FFC用フィルムでは、民生用途で長年培った配合技術を応用・開発した商品を、高耐熱、高耐久性が要求される車載機器、車輛保安部品用途にご採用いただいております。

光学用フィルムは厳しい要求特性をクリアし大型ディスプレイ用にご

使用いただいております。今後は開発中の各種機能性フィルムを、幅広い分野への展開にチャレンジしていきます。とりわけ、省エネ効果がある環境エコロジー商品を建材用、自動車用に投入していき環境保全に貢献していきたいと存じます。

前身の代表拠（駐在員事務所）開所から約10年間、建材・家電・電材の市場調査を継続してきた結果、頭書の実績に繋げる事ができました。内需主導で拡大している中国市場に対応していくため、法人化1年を経た理元としては、フィルム製品の輸入販売はもとより、商賈機能を活かし、各種原材料・製品の提供も含め、リケンテクノスグループに貢献できるよう邁進していく所存です。

総経理：松浦 浩

## RIKEN ELASTOMERS(THAILAND)CO.,LTD.

設立：2011年 出資比率：99.9% 資本金：3億タイバーツ  
 主な業務内容：高性能プラスチックコンパウンド製造・販売



完成予想図



従業員の皆さん（中央：大工原 MD）

### アジア初のエラストマーコンパウンド生産拠点

リケンエラストマーズ（タイランド）は日本を除くアジアで初のエラストマー生産拠点です。また海外製造会社としては初のリケンテクノス100%資本の会社としてスタートしました。販売先はタイ国内だけでなく、インド・インドネシア・中国華南地区に輸出を予定しており、アジアの広い地域をカバーしていきます。タイの大洪水により、工事が中断しましたが、現在は建設を進め2012年の年末の稼働を目指しています。完成後は、日本・米国の生産拠点と連携したエラストマーのグローバルな供給体制が確立いたします。

主なお客様は自動車部品メーカーであり、アジアの拡大する自動車需要に対応すると共に、建材・生活雑貨用途にも積極的に拡販していきます。発展を続ける東南アジアでエラストマーコンパウンドのNo.1の地位を築くべく、まずは、アジアのお客様にこの会社があって本当に助かったと言ってもらえる、タイの従業員にこの会社で働けて良かったと言ってもらえる、リケンテクノスグループの社員にこの会社を作ってもらったと言ってもらえる会社になります。

Managing Director：大工原 敬次郎

# リケンテクノスグループ概要

## 会社概要 (2012年3月31日現在)

社名	リケンテクノス株式会社
設立年月日	1951年(昭和26年)3月30日
資本金	85億14百万円
代表取締役	清水 浩
従業員数	759名
本社所在地	東京都中央区日本橋本町3丁目11番5号

## 事業内容

リケンテクノスは塩化ビニル樹脂コンパウンドの商業生産とその販売を目的に「理研ビニル工業株式会社」として1951年に設立されました。

2001年の創業50周年を機に社名を理研ビニル工業株式会社から「リケンテクノス株式会社」(RIKEN TECHNOSは、「RIKEN」「TECHNOLOGY」「SUPPLIER」を統合した名称)に変更しました。

創業以来培われてきた合成樹脂加工に係わる総合的な技術をベースに「コンパウンド事業」「フィルム事業」「食品包材事業」の3事業を柱に国内外で事業を展開しています。新経営理念「リケンテクノス ウェイ」のもと、「科学の力のチャレンジメーカー」として、多様化・高度化するお客様や社会のニーズに適合した高品質な製品・技術を提供しています。

### コンパウンド事業

コンパウンドとは、ベースの樹脂に添加剤を何種類か混ぜ合わせ、新しい性質を持たせた複合材料で、主に押出成形や射出成形に使われる素材です。

#### ● 主要製品

塩化ビニルコンパウンド、熱可塑性エラストマー、導電性コンパウンド、制電性コンパウンド、バイオマスコンパウンドなど

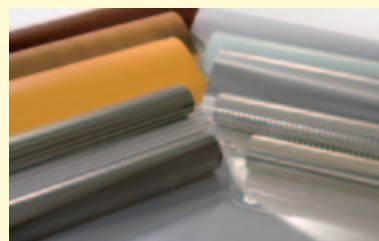


### フィルム事業

配合した樹脂の特性に適した製法で高品質のフィルム製膜を行っています。また、複数のフィルムを貼り合わせたり、表面に機能性塗料をコートすることによって意匠性や機能性を付与したフィルム製品を製造しています。

#### ● 主要製品

建築内装用化粧シート、鋼板用フィルム、ポリエステル樹脂系フィルム、IRカットフィルム、ガラス装飾フィルム、光学用フィルムなど



### 食品包材事業

日本で初めて塩化ビニル樹脂のラップを開発したパイオニアとして、家庭用から業務用まで、食品包材用ラップの品質・性能を追求するとともに、食品や自動包装機などに適したラップを開発し、製造しています。

#### ● 主要製品

塩化ビニルラップ、オレフィン系ラップなど



## 中期経営計画

### 中期経営計画

2010年4月よりスタートさせた中期経営計画は、本年度が最終年度となります。方針の柱は『メーカーとして「ものづくり」の原点に立ち返り、お互いの「信頼感」を基礎にした力強い企業を再生すること』です。

各部署で目標の達成に向けた様々な取り組みを行っておりますが、本年10月に行う食品包材事業の大手企業「三井化学ファブロ株式会社」の買収は、計画にあげた国内での事業強化策の一環です。

アジア市場に関しては、インドネシアのPT. RIKEN INDONESIAにて医療用塩ビコンパウンドの生産工場を新設し、2013年春の稼働を目指します。今後さらに拡大する医療器具向けの需要に向けて安定した供給体制を整えます。

高機能製品については、特にフィルム事業が開発に注力し、長年培ってきた独自技術を活かして、建材市場以外の分野へ応用していきます。

今後も、当初定めた目標の達成に向け、課題解決のための諸施策をスピードを上げて実施していきます。

### 主要テーマ

#### ① 体質の改善

業務プロセス管理を含めた業務改革と人材育成を行います。

#### ② 高機能製品事業の拡大と高収益化に向けた改革

技術、製造、営業各部門が一体となって顧客ニーズに応えます。

#### ③ 全事業のグローバル化

成長・拡大する地域でビジネスチャンスを実際に捕捉する体制をスピードをもって構築します。

### 業績

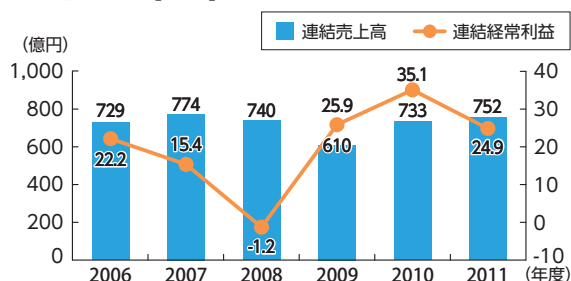
詳細は当社ホームページの『財務・IR』のページをご覧ください。

#### ● 2011年度業績

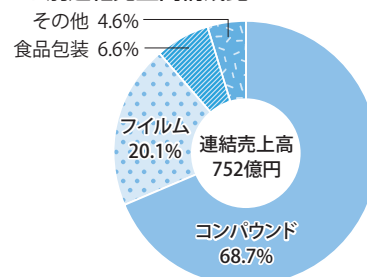
(単位:億円)

	連結	個別
売上高	752	491
営業利益	23.5	8.9
経常利益	24.9	13.2
当期純利益	19.6	15.8

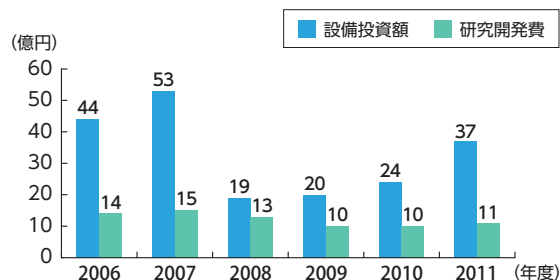
#### ● 業績の推移[連結]



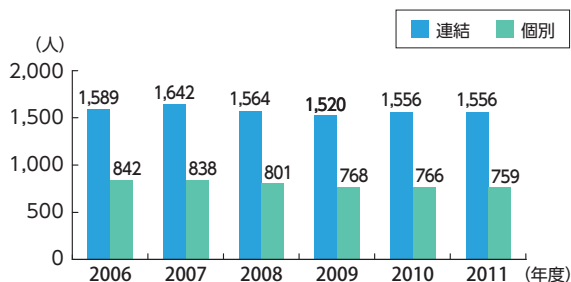
#### ● セグメント別連結売上高構成比



#### ● 設備投資額および研究開発費の推移[連結]



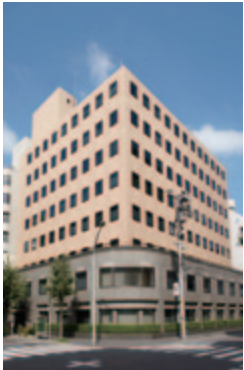
#### ● 従業員の推移



# 国内・海外ネットワーク

リケンテクノスグループは、リケンテクノスおよびグループ会社15社で構成されています。創業以来、積極的に国内外市場を開拓し、リケンテクノスブランドの浸透に努めてきました。「マテリアル・ソリューション・サプライヤー」として、国内外拠点の連携により、総合的にお客様の課題を解決しています。

## リケンテクノス株式会社事業所および国内関連会社



1 本社



4 埼玉工場



8 研究開発センター(埼玉)



11 カネコン商事株式会社



13 リケンファブプロ株式会社



5 三重工場



9 進興電線株式会社



12 エムアイ化成株式会社



2 大阪支店



6 群馬工場



10 株式会社協栄樹脂製作所



3 名古屋営業所



7 研究開発センター(東京)



● 製造会社 ● 販売会社  
\* ISO9001 認証取得 \* ISO14001 認証取得

2012年10月1日現在

リケンテクノス株式会社事業所	主な業務内容	所在地
1 本社	本社機構、コンパウンド・フィルム・食品包装用フィルムの営業	東京都中央区
2 大阪支店	コンパウンド・フィルム・食品包装用フィルムの営業	大阪府大阪市
3 名古屋営業所	コンパウンド・食品包装用フィルムの営業	愛知県名古屋
4 埼玉工場	コンパウンド・フィルム・食品包装用フィルムの製造	埼玉県深谷市
5 三重工場	コンパウンド・フィルム・食品包装用フィルムの製造	三重県亀山市
6 群馬工場	クリーン環境下での高機能フィルムの製造	群馬県太田市
7 研究開発センター(東京)	コンパウンドの研究開発および国内外拠点の技術的サポート	東京都大田区
8 研究開発センター(埼玉)	フィルムの研究開発および国内外拠点の技術的サポート	埼玉県深谷市

国内関係会社	主な業務内容	所在地	資本金	出資比率
9 進興電線株式会社	電線の製造・販売	埼玉県入間市	4,800万円	100%
10 株式会社協栄樹脂製作所	合成樹脂製品の成形加工および製品の販売	東京都中央区	2,400万円	100%
11 カネコン商事株式会社	合成樹脂加工品販売	東京都港区	1,000万円	100%
12 エムアイ化成株式会社	コンパウンドの製造・販売	滋賀県湖南市	3億円	100%
13 リケンファブプロ株式会社	食品包装用フィルムの製造・販売、日用品雑貨の製造・販売	東京都千代田区	2億円	100%

国内関係会社は本社所在地のみを表示しています。

## 海外関係会社



14 リケンタイランドカンパニーリミテッド



15 PT. リケンインドネシア



16 上海理研塑料有限公司



17 理研食品包装(江蘇)有限公司



18 リケンU.S.A. コーポレーション



19 リムテックコーポレーション



20 リケンエラストマーズコーポレーション



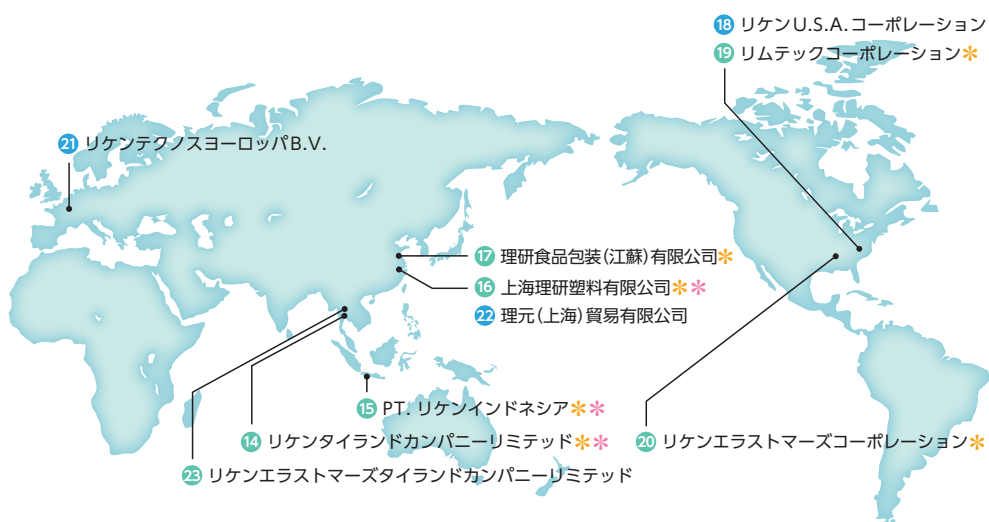
21 リケンテクノスヨーロッパB.V.



22 理元(上海)貿易有限公司



23 リケンエラストマーズタイランドカンパニーリミテッド完成予想図



● 製造会社 ● 販売会社  
\* ISO9001 認証取得 \* ISO14001 認証取得

2012年10月1日現在

海外関係会社	主な業務内容	所在地	資本金	出費比率
14 リケンタイランドカンパニーリミテッド	コンパウンドの製造・販売	PATHUMTHANI THAILAND	1億2,000万タイバーツ	40%
15 PT. リケンインドネシア	コンパウンドの製造・販売	WEST JAVA, INDONESIA	570万米ドル	62%
16 上海理研塑料有限公司	コンパウンドの製造・販売	中華人民共和国 上海市	750万米ドル	70%
17 理研食品包装(江蘇)有限公司	食品包装用フィルムの製造・販売	中華人民共和国 江蘇省	1,350万米ドル	91%
18 リケンU.S.A. コーポレーション	機能性フィルム製品の仕入・販売	NJ, U.S.A.	740万米ドル	100%
19 リムテックコーポレーション	コンパウンドの製造・販売	NJ, U.S.A.	1,000万米ドル	51%
20 リケンエラストマーズコーポレーション	高機能プラスチックコンパウンドの製造・販売	KY, U.S.A.	1,000万米ドル	100%
21 リケンテクノスヨーロッパB.V.	機能性フィルム製品の仕入・販売	AMSTERDAM, THE NETHERLAND	40万ユーロ	100%
22 理元(上海)貿易有限公司	プラスチック製品の卸売り・輸出入	中華人民共和国 上海市	500万人民币	100%
23 リケンエラストマーズタイランドカンパニーリミテッド	高機能プラスチックコンパウンドの製造・販売	AYUTTHAYA, THAILAND	3億タイバーツ	99.9%

# 製品のご紹介

私達の製品は、用途に応じて加工され、暮らしの中で活躍しています。

## コンパウンド製品

- 自動車（外装モール用、内装グリップ用）



- 電線（自動車用、建築資材用、通信用、機器用）



- 電機・電子（ICキャリア、パッキン）



半導体関係の包装資材



- 建材（窓枠、ガスケット）



- 日用品（レコード、文具）



- 医療・食品（チューブ、幼児玩具）



消しゴム





## フィルム製品

- 建築内装材のための化粧フィルム
- 家電・ユニットバス向け鋼板のための化粧フィルム
- フラットケーブル用フィルム
- 光学用フィルム
- ガラス用熱線カット、飛散防止、装飾フィルム
- 自動車ガラス用フィルム
- 半導体の製造工程用フィルム
- 電子部品用フィルム
- 太陽電池用フィルム



ガラス用装飾フィルム OPTIA®



キャビネット用ステンレス調フィルム



ユニットバス化粧フィルム



光学用フィルム

## 食品包材

- 家庭用ラップ
- 業務用ラップ



リケンラップ®は、  
ぴったりくっきます。



使いはじめが引き出しやすい「リケンカール®」



# コーポレートガバナンス

## 法務・コンプライアンス室長メッセージ



リケンテクノス株式会社  
取締役 法務・コンプライアンス室長  
入江 淳二

### 3つのコミットメント

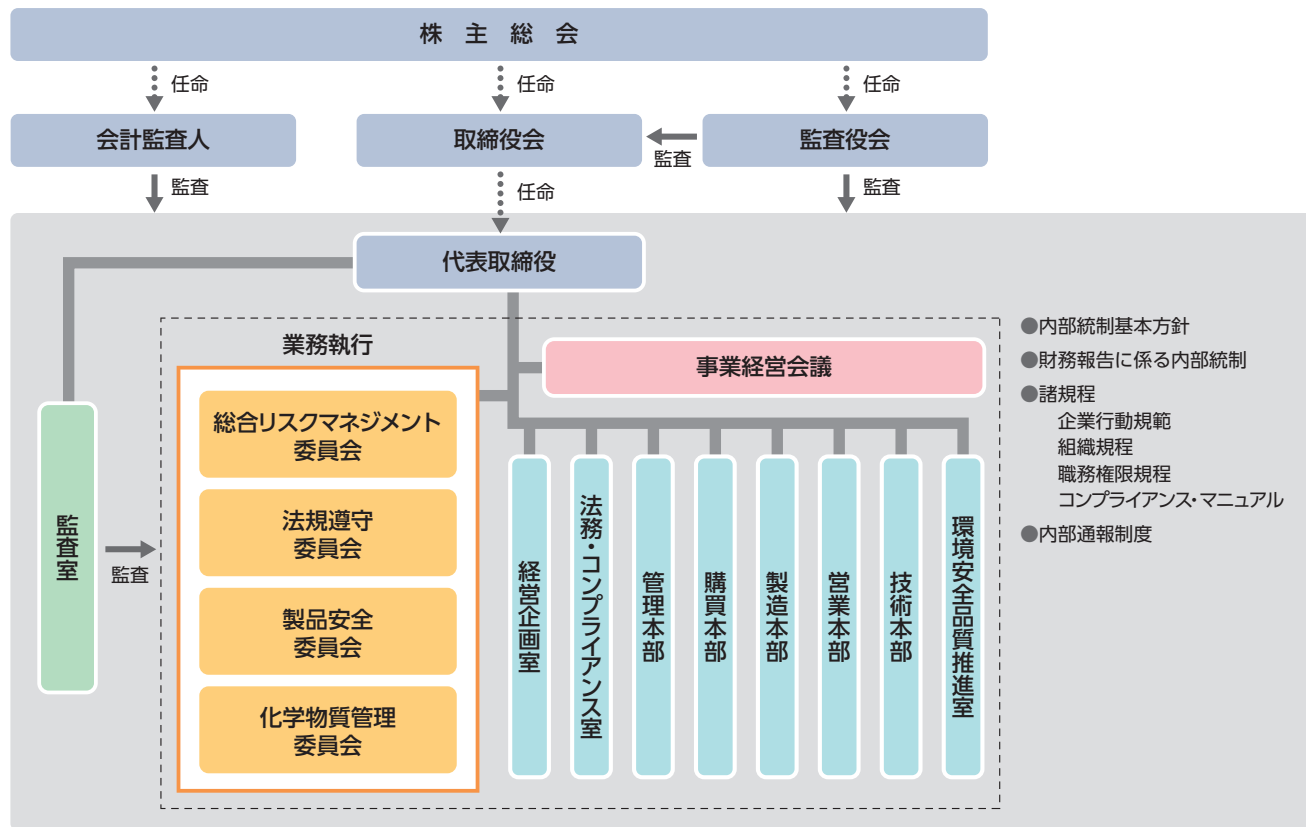
1. 法令遵守・コンプライアンス経営の実践
2. リスク感応度・リスク管理能力の向上
3. 緊張感があり、活力がある企業風土の醸成

リケンテクノスではグループ会社も含め、お客様・株主の皆様・地域社会など社会の信頼と期待にお応えするよう取り組んでまいります。法令遵守は無論、コンプライアンスについて全役職員が高い意識を持った取り組みが継続されるようコンプライアンス研修会等の場を通じ徹底してまいります。

また、リスク管理におきましても、「時代へのアンテナ」をしっかりと張り「リスクの所在」を的確に把握しつつ、「リスクの回避」に努めます。すべてのステークホルダーの皆様のお役にたてる企業に向かって、一致団結し王道を歩む姿勢で取り組んでまいります。

## コーポレートガバナンス体制

リケンテクノスは下の図に示すコーポレートガバナンス体制を取っています。



## リケンテクノスグループ企業行動規範

社会的信頼を確保し、企業の社会的責任を果たす基本方針として「リケンテクノスグループ企業行動規範」を定め、全ての役員および従業員がこれに従って活動を行っています。

また、行動規範をカードにまとめて社員一人ひとりが常に携帯し、実践に努めています。

(<http://www.rikentechonos.co.jp/CompanyInfo/corporatebehaviornorms.html>)



## 内部統制システムの基本方針に沿った体制整備

「リケンテクノスグループ企業行動規範」を確実に実現するために「内部統制システムの基本方針」が制定されています。ここに示された対象のうちコーポレートガバ

ナンス上、特に注力すべき項目とその取り組み状況は次の通りです。

### 1. 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

「リケンテクノスグループ企業行動規範」および法令・定款遵守が全ての企業活動においての基本であることを全員に徹底する一方で、法規遵守委員会による全社管理を行い、法務担当部署による全役職員を対象としたコンプライアンス教育を実施し、また内部通報制度を設けています。

また、いわゆる反社会的勢力とのかかわりを断固排除することを宣言しています。

### 2. 損失の危機管理に関する規程その他の体制

代表取締役社長を委員長とする総合リスクマネジメント委員会を設置し、事業活動に潜在するリスクのうち、特に経営に重大な影響を与えるリスクとして特定したものについて、その発生を未然に防止し影響度合いの低減に努める一方で、発生時の対応の検討を進めています。

### 3. 企業集団における業務の適正を確保するための体制

リケンテクノスグループ全体の内部統制システム構築と情報共有化の徹底を図るミッションを経営企画担当部署に与え、グループとして業務の適正性が確保できる体制を整えています。

### 4. 監査が独立性を保ち、実効的に行われる体制

監査役は社内の重要な会議に出席し、議事録などの閲覧を行い、企業としての意思決定が適切に行われているか確認を行います。代表取締役との定期的な意見交換を行うほか、半期毎の会計監査人、監査室を合わせた3組織による意見交換、任意の役職員との間で随時ヒアリングを行い、実効的な監査が行われることを確保できる体制を構築しています。

また、内部監査については、2004年4月に設置した監査室が担当しています。内部統制の目的である「業務の有効性・効率性」「財務報告の信頼性」「法令などの遵守」「資産の保全」の達成のため、その6つの要素である「統制環境」、「リスクの評価と対応」、「統制活動」、「情報と伝達」、「監視活動」、「ITへの対応」を主眼に置いた監査を実施しています。

## 財務報告に係る内部統制

「金融商品取引法」に基づき、財務報告に係る内部統制の整備・運用および評価の基本方針書を作成し、2009年3月期決算から適用しています。

2012年3月期決算におけるリケンテクノスグループの財務報告に係る内部統制は有効であると評価する内部統制報告書を金融庁に提出しました。

## 独立役員

リケンテクノスは、東京証券取引所上場規程第436条の2の定めに従い、2名の独立役員を確保しております。

## 内部通報ホットライン

リケンテクノスには内部通報規程があり、法令・規則違反に関する疑問などを連絡・相談する窓口として内部通報ホットラインが設置されています。相談者が社内で特定されないようにするなど、匿名性を確保し、相談者がいかなる不利益も受けないよう徹底しています。

## 情報セキュリティ

リケンテクノスでは、アクセス制限・データの暗号化などにより、情報漏洩リスクの最小化に努めています。不正アクセスに対しては最新のプロテクトシステムを導入し防止に努めています。

また、個人情報保護法に基づき、「個人情報保護基本規程」、「個人情報取扱規則」を制定・運用しています。

# お客様とのかかわり

リケンテクノスは「科学の力のチャレンジメーカー」として、お客様に満足いただける製品を開発しお届けいたします。製品の安全性と品質にこだわり、化学物質の管理強化に努めます。

## 営業本部長メッセージ



リケンテクノス株式会社  
代表取締役専務 営業本部長  
村上 文良

### 3つのコミットメント

1. お客様と共に新市場をつくり、更なる可能性の追求を行います。
2. プロダクトアウトからマーケットインへの変革を行います。
3. ワールドワイドサプライチェーンを確立します。

お客様の発展がなければ当社の発展もありません。「科学の力のチャレンジメーカー」リケンテクノスは、お客様と共に可能性を追求します。

当社の製品別営業・販売体制から、お客様の事業分野別営業・販売体制への変革を目指します。お客様の立場に立った営業・販売体制への変革を目指します。

自動車・運搬機器、電子・情報機器、医療・ヘルスケアなどの先端技術が要求される製品群において、当社のワールドワイドの開発・生産・販売体制をさらに充実し、お客様へのすばやいサービスを可能にする人員・体制の確立を目指します。そして、世界中の「企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます」

## 大阪支店長メッセージ



リケンテクノス株式会社  
取締役 大阪支店長  
井崎 俊一

### 3つのコミットメント

1. 長年培った「配合技術」と「混練加工技術」を持ってお客様の要望にしっかりと応えていきます。
2. お客様が求める情報を素早く提供できるように技術・工場と連携しスピード感を持って応えます。
3. 新製品の市場開拓はお客様と協働でしっかりと推進します。

西日本地域では電線や雑貨・建材関係のお客様が多い中、当社が得意とする「独創的で卓越した樹脂素材の配合加工技術」でお客様が求める製品、つまり「その先の顧客満足が得られる価値ある製品作り」を全面的にサポートしてまいります。

それには当社とお客様とが一体となり、技術力・分析力を駆使して他に無いオリジナリティの高い製品造りを進めるために、営業として技術、工場との連携を密にしてご要望に対しスピード感をもって対処してまいります。

震災からの一日も早い本格的な復興が待たれますが、当社の材料がお客様の製品という形を通し、復興に役立つことを願っております。

## 技術本部長メッセージ



リケンテクノス株式会社  
取締役 技術本部長  
佐藤 良一

### 3つのコミットメント

1. 新しい技術から生まれた製品で、新たな価値を提供いたします。
2. 循環型社会実現へ向けて、リサイクル、省エネ、自然エネルギー関連製品の開発を促進いたします。非石油系原材料を利用した技術開発を検討いたします。
3. 有害物質を含まず安全性を確保した製品の開発を行います。

リケンテクノスの技術開発の方向性として、企業の社会的責任とお客様の快適・安全性を第一義においた製品開発を目指していきます。環境への影響を常に意識した開発姿勢で臨み、新しい技術を活かした製品をお客様に提案いたします。

社会の発展に貢献する製品、人の生活をより豊かにする製品を、プラスチック素材で実現していくことが、研究部門に課せられた使命であるにとらえ、改良・開発を進めていきます。

環境関連製品として、太陽光、風力発電関連製品、電気自動車用充電ケーブル、遮熱シート、非石油系材料の製品開発に取り組んでおります。一部はお客様に提供をはじめており、高評価をいただいております。

## 新たな挑戦へ

リケンテクノスは「科学の力のチャレンジメーカー」として、最先端の技術を駆使し、多様化するニーズに合わせ、様々な製品を開発しています。

本報告書では、自動車業界の先端技術の発信の場である

「人とくるまのテクノロジー展2012」とフィルムの最先端加工技術が集結する「高機能フィルム技術展」にて展示した製品をご紹介します。

展示会概要

「人とくるまのテクノロジー展 2012」  
開催日：2012年5月23日～25日 場所：パシフィコ横浜

「第3回 高機能フィルム技術展」  
開催日：2012年4月11日～13日 場所：東京ビッグサイト

## 「人とくるまのテクノロジー展 2012」

自動車業界の第一線で活躍する技術者・研究者のための自動車技術専門展として年々規模を拡大し、2012年度においては出展社数436社が出展。5万人を超える来場者がありました。リケンテクノスはチャレンジメーカーとして最先端技術を駆使し、お客様の多様化するニーズに合わせ様々な製品を開発しています。出展品の一部をご紹介します。



「人とくるまのテクノロジー展」ブースにて

### ◆ 機能性コンパウンドとエンプラ系コンパウンド

昨今の車両開発は、環境配慮型のハイブリッド車や高度都市機能との融合などを主眼とした電装部品や通信技術との融合に向かっています。それらの高度電装部品の製造工程や搬送において必須となる、静電気障害や電磁波障害への対策提案として、スタティックマスターやエンプラ系素材のご紹介をしました。



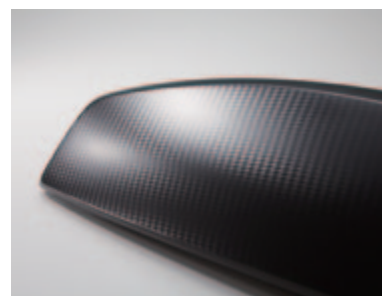
「人とくるまのテクノロジー展」

### ◆ E触感® エラストマー

E触感® エラストマーは、高度に架橋したゴムを微分散させることで、耐油性・耐磨耗性という機能を維持しながら、触感にこだわって開発し、従来のTPEにはない触感を実現しました。E触感® エラストマーの機能を活かしながら、軽量化につながる発泡を組み合わせることで、新たな用途も広がります。シフトノブやパーキングブレーキ等の内装表皮分野に採用されております。

### ◆ 内外装用の高意匠フィルム

自動車内装のアクセントとなるオーナメントパネルは、常に意匠の差別化や質感の追及を求められる部品です。リケンテクノスでは建材・家電分野で培った意匠フィルムの技術を応用したエンボス加飾フィルムを開発しました。自動車内装部品用として適用が始まっております。また、外装用光輝調フィルムは、従来の金属材料からの置換えによる車体軽量化手法として注目され採用車種が拡大しています。



内装用加飾フィルム

## 高機能フィルム技術展

リケンテクノスの長年培ってきた技術力と新製品をアピールするため、高機能フィルム技術展に出展しました。展示した新商品の一部をご紹介します。

### ◆ 擦り傷を自己復元します「キズキュア/KIZCURE®」

キズキュアは、表面の擦り傷を自己復元するフィルムです。真鍮ブラシなどで激しく擦ったとしても、軽微な傷であれば時間と共に消失します。PET、塩ビ、ポリオレフィンなど様々な素材のフィルムと組み合わせることが可能です。現在では、高級壁装材に採用されております。また、自動車の内外装用途としても展開を図っていきます。

### ◆ 高親水性ハードコートフィルム

#### 「アクアテクト/AQUATECT®」

アクアテクトは、独自の高親水ハードコートにより、水で汚れがすぐに落ちるフィルムです。水がかかっても水滴が残らずアクアテクトを貼り付けた部分は、視認性が落ちません。指紋もきれいに拭き取れます。

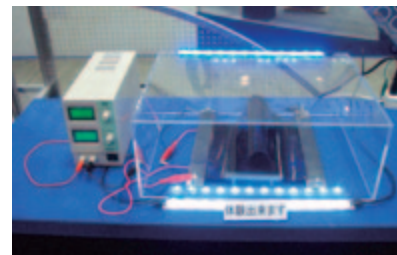


左：アクアテクト有、右：なし

## お客様とのかかわり

### ◆ 導電フィルム

フレキシブルな導電フィルムです。フィルムの表面だけでなく、全体に導電性能が付与されているため、スクラッチや変形にも耐えて安定的な導電性を維持することができます。様々なベース樹脂でお客様の要求性能に合わせて設計が可能です。



導電フィルムにより、点灯している様子

## 製品の品質保証

リケンテクノスはISO9001<sup>\*1</sup>の仕組みを活用しています。各生産拠点に品質保証部門を置き、原材料受け入れから製品納入まで全工程の品質管理を徹底しています。さらに、毎月生産拠点・製造課ごとに品質改善委員会を開催し、不良事例および改善対策、改善実施状況の管理

を行い、一層の品質向上を目指し努力しています。

また、製品の開発段階より、お客様のご要望を満たし、安定した品質が得られる材料設計に注力し、新素材などの環境対応型製品も積極的に開発しています。

## 安全に配慮した製品開発

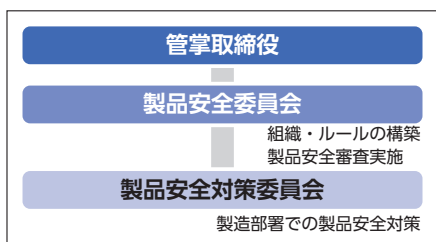
### ◆ 製造物責任 (PL<sup>\*2</sup>) 対応

メーカーに課せられた使命として、当社設立以来、製品の安全性に配慮してきております。また、製造物責任法<sup>\*3</sup>の施行を機会に、1995年1月PL問題の発生を防止するシステムを構築し、「製品の安全性」への取り組みをさらに強化しています。

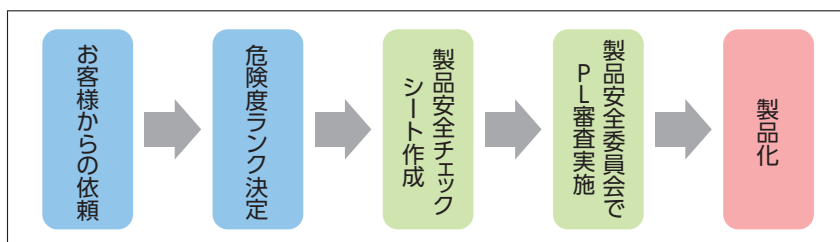
### 製品安全基本方針 (製品安全規定より)

製品の開発段階からお客様への納入まで、製品の安全性を確立し、製造物責任に関する諸問題の発生を未然に防止する。

### 製品安全組織



### 製品安全審査手順



## 化学物質の安全性の管理強化

### ◆ 規制対象化学物質の混入防止ライン

ELV 指令・RoHS 指令などの規制対象化学物質の混入を防止できるラインとなっています。

### ◆ 化学物質管理委員会の設置

「化学物質管理指針」を設定し、法律で禁止されている化学物質のほか、化学物質審査規制法の第一種・第二種特定化学物質と監視化学物質も使用していません。労働安全衛生上、避けるべき化学物質も自主的に削減しています。

\*1 ISO9001：製品やサービスの品質保証を通じて組織の顧客や市場のニーズに応えるために活用できる品質マネジメントシステムの国際規格

\*2 PL：Product Liability 製造物責任

\*3 製造物責任法：日本では1995年7月に施行

# 株主様とのかかわり

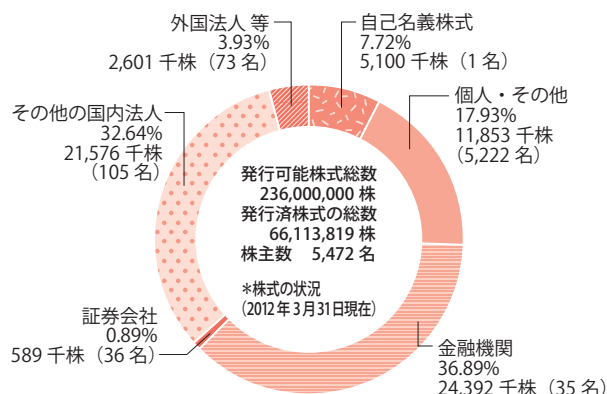
株主の皆様のご支援に対し厚く御礼申し上げますとともに、何卒一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 情報開示について

リケンテクノスは、常に株主や投資家の皆様の視点に立った迅速、正確かつ公平な会社情報の開示を適切に行っています。皆様に事業活動の状況や戦略などへの理解を一層深めていただけるよう、東京証券取引所の適時開示基準以上の積極的開示をするよう努めています。

また、当社ホームページに財務・IRに関するページを設け、決算短信、適時開示資料、有価証券報告書などを情報開示（プレスリリース）後、速やかにホームページに掲載しています。

## 株式状況・株主の構成



## 利益配分に関する基本方針

リケンテクノスは従来から安定した配当を継続して実施することを努めています。積極的な事業展開を行うため十分な内部留保の維持と株主の皆様に対する利益還元を果たせるよう、剰余金については自己株式の買い受けを含め、効率的な使用を取締役会で十分検討の上、決定して

います。2012年3月期配当金については、創立60周年の記念配当1円を加え1株当たり5円とし、中間配当金を含めた年間配当金には、1株当たり9円とさせていただきました。

基準日	1株当たり配当金		
	中間	期末	年間
2008年3月期	4円00銭	4円00銭	8円00銭
2009年3月期	4円00銭	2円00銭	6円00銭
2010年3月期	3円00銭	3円00銭	6円00銭
2011年3月期	4円00銭	4円00銭	8円00銭
2012年3月期	4円00銭	5円00銭	9円00銭

### ◆ 招集通知の早期発送

株主の皆様にご意見を十分に伺いながらご審議いただけるよう招集通知の早期発送に努めています。

### ◆ 株主総会の集中日開催の回避

より多くの株主様にご出席いただけるよう、株主総会の集中日を避けて開催しております。

# お取引先様とのかかわり

リケンテクノスでは、サプライチェーンを含めたより良い環境システム、品質システムの構築に努めています。また、安定調達を意識した、競争力のある原料調達に努めています。

## 購買本部長メッセージ



リケンテクノス株式会社  
取締役 購買本部長

住吉 正充

### 3つのコミットメント

1. 相互信頼
2. 共存・共栄
3. 公正公平な機会の提供

当社のミッションの実現には当社のもの造りの支えとなる原材料の重要性は言うまでもありません。また、お客様に当社製品を確実・迅速・安全にお届けできる高度な配送システムがサプライチェーンを支えています。このように当社と共にサプライチェーンの一部を担っていただくお取引先との関係は相互信頼が基盤になっていることが重要です。また共存・共栄の精神が存在しないお取引には持続的な相互の繁栄・成長は期待できないと考えています。さらに、様々な環境変化に適応可能なBCP（事業継続計画）の確立や、サプライチェーンのグローバル化への適切な対応など、当社も進化する必要に迫られています。そのためには既成概念の枠にとらわれた従来のお取引の延長だけではなく、将来を見据えたご提案や新規参入に公正かつ公平な機会を提供します。当社は製品や提案を通じて社会的に必要とされ続けたいと願っており、あわせてお取引先の皆様方と共に発展して行きたいと願っています。

## 当社の購買方針について

### ① 公正な購買取引と選定

対等な立場で取引を行います。複数購買を原則とし、公正公平な参入機会を提供します。

### ② パートナーシップの構築

お取引様とは良好な人間関係を保ち、人間的尊厳を重視し不当な差別はいたしません。

### ③ 関連法令の遵守と自主管理

お取引様との機密情報の取り扱いに留意し、社会的規範や関連法令を重視し、リケンテクノスグループグリーン調達基準に基づき購入を行います。

## 当社の購買体制について

当社の購買業務は、本社購買本部の資材部と、各工場の業務課が行っています。

### 購買担当

**資材部** 集中購買による原材料・原反・燃料・包装資材・高額設備関連など。

**各工場の業務課** 消耗品・貯蔵品・設備関連など。

## サプライチェーンマネジメント

お客様により安全な信頼性のある製品をお届けするため、お取引先各社の協力を得て、サプライチェーンを含めたより良い環境システム、品質システム構築に努めています。2011年度は、25社の原材料購入先、委託加工先、運送委託先、産業廃棄物処理委託先の環境を含めた品質監査を実施し、改善にご協力いただきました。

## リケンテクノスグループ グリーン調達基準

2009年8月「リケンテクノスグループグリーン調達基準」の範囲に関係会社も加わりました。詳細は当社ホームページをご覧ください。

### ◆ 適用範囲

当社が調達する樹脂、可塑剤、安定剤、充填剤、強化剤、着色剤、フィルム基材、塗工剤、接着剤等直接製品を構成するものや、包装材、離形紙などの副資材など。

### ◆ 要求事項

- a. お取引様における環境管理システムの構築
- b. 環境関連物質の管理等に関する環境パフォーマンスの達成
- c. 当社が指定した環境関連物質に関する調査および報告  
[RoHS6物質の測定データ]、[化学物質含有情報シート]の提供

### ◆ 運用

環境関連物質中の含有禁止物質が含まれていない、あるいは管理すべき物質の含有量が把握されている原材料・副資材を調達していきます。また、評価結果により、お取引先様に対しより安全で環境負荷の少ない原材料・副資材に改善のお願いをすることがあります。

## 物流における環境への取り組み

- 自動配車組みシステムによる積載効率の向上。
- 製品納入の帰り車の利用による実車率の向上。
- 物流拠点の統廃合。
- 省エネ法による特定荷主としての義務。当社は、中長期的にみてエネルギー消費原単位を年率1%低減が目標。
- ユーザーからのパレットの回収により購入枚数の削減を推進。森林資源保護のためプラスチック製への変更を推進。
- グリーン物流促進事業への参加。

### ◆ 品質安全活動

- 提携運送会社によるISO9001の認証取得、Gマーク(安全性優良事業所)の認定取得を推奨しています。

### 亀山急送株式会社殿

Gマーク登録証

登録日：2009年1月19日 有効期限：2013年1月18日

ISO9001登録証

登録日：2003年5月9日 有効期限：2015年5月8日

### 株式会社モテギ殿

Gマーク登録証

登録日：2007年12月20日 有効期限：2015年12月31日

ISO9001登録証

登録日：2000年3月10日 有効期限：2013年4月1日

ISO14001登録証

登録日：2004年10月29日 有効期限：2013年10月28日

# 地域のみなさまとのかかわり

リケンテクノスグループでは、各事業所の地域社会との共生のために様々な取り組みを行い、事業活動へのご理解をいただいています。

## 地域のみなさまとの交流

### ◆ 埼玉工場

- 近隣住民との懇談会（年1回）
- インターンシップ受け入れ
- 地域での開催イベントへの協賛、参加  
（コスモス祭り、ふかやシティハーフマラソン、おかべふれあいカーニバル、こどもみこし等）
- 近隣自治会の夏祭りの協賛
- 献血の実施（年2回）

### ◆ 三重工場

- 2年に1度近隣住民との懇談会・工場見学の実施
- 中学生・高校生職場体験の実施
- 亀山市駅伝大会、納涼大会への協賛および参加
- 関宿の納涼花火大会への協賛
- 近隣自治会主催子供祭りへ寄付金贈呈
- 献血の実施（年2回）
- 亀山ハイウェイオアシス館へ展示品の提供
- 年1回赤い羽根共同募金へ寄付金拠出
- 亀山音楽祭（亀山ミュージックジャンボリー）への協賛
- 工場周辺で交通巡視の実施
- 亀山商工会議所創立60周年記念式典への協賛
- 第52回交通安全国民運動中央大会  
交通安全優良団体賞受賞（全国43団体）

### ◆ 群馬工場

- 地域主催の夏祭りに協賛（協賛金・ラップ）



埼玉工場 コスモス祭り



埼玉工場 ふかやシティハーフマラソンへの協賛・参加



三重工場 交通安全国民運動中央大会に招待されました。



三重工場 献血の実施



三重工場 交通安全講習会



## 地域の環境を守るために

リケンテクノスでは、地域の環境を守るためボランティア活動を行っています。

### ◆ 埼玉工場

- 工場周辺ゴミ拾い (月1回実施)
- 岡部駅までの線路沿いゴミ拾い (年2回実施)
- ゴミの分別
- 納入業者、社員駐車場のアイドリングストップ指導、実施

### ◆ 三重工場

- 年2回の工場周辺道路および河川敷の清掃活動
- 年2回亀山市主催清掃ボランティア活動への参加 (川と海のクリーン大作戦・不法投棄禁止キャンペーン)
- 年2回 (春季・秋季) 緑の募金へ寄付金拠出  
主催団体：(社) 三重県緑化推進協会
- かめやま会故 (エコ) の森環境整備活動への協賛および森林整備ボランティア活動へ年4回参加
- 環境省主催ライトダウンキャンペーンの実施

### ◆ 群馬工場

- 安全衛生委員による定期的な安全パトロール、および工場周囲のごみ拾い実施。
- 工場から出るゴミは分別に努め、リサイクルを意識しています。
- 従業員は各自の居住地域での資源回収活動、ゴミ拾い活動に取り組んでいます。



埼玉工場 工場周辺のゴミ拾い



三重工場 工場周辺道路清掃



三重工場 エコの会

## 社会への貢献

米国のリムテックコーポレーションとリケンエラストマーズコーポレーションでは、毎年「ユナイテッドウェイ」\*1の募金活動に参加しています。

また、米国のリケンエラストマーズコーポレーションでは、バックパックプログラムに参加し寄付を行うと同時に、読み書きと算数の個別指導による学習支援も行っています。

\*1 アメリカで最大規模の募金組織



パートナー校のペンブローック小学校での個人指導の様子。リケンエラストマーズの人事部のローラ・トーマスさんとブラッドリーちゃん

## 地域のみなさまとのかわり

### インターンシップ

未来を担う子供たちのために職場体験・インターンシップを積極的に実施しています。埼玉工場・三重工場ともに家庭用ラップの製造工程などを体験していただきました。



上記2点 埼玉工場での職場体験



三重工場での職場体験

2012年に実施した埼玉工場での職場体験記をご紹介します。フィルム製品、家庭用ラップの製造工程、および設備保全での実習を体験していただきました。

#### 埼玉工場 埼玉県立熊谷工業高等学校 機械科1組 生徒代表

初日は、ラインに入ってラップの化粧箱の補充、ラップの皮剥ぎという作業を二人で行い、かなりの体力が必要だということわかりました。2日目も同じ作業をしましたが、初日より慣れたのですばやく作業することができました。最終日は、電動モーターの整備をし、担当者のサポートを受けながら作業をし、悪いところが良くなったので、よかったです。学校では体験できない作業をし、色々なことを経験することができました。とても感謝しています。

#### 埼玉工場 埼玉県立熊谷工業高等学校 機械科1組 生徒代表

1日目は、ラップの皮剥ぎ作業と、化粧箱の補充をしました。2日目は、1日目の作業と同じでしたが、1日目との違いは、二人での仕事を一人でやらないといけないところです。最初は、簡単な作業だと思いました。しかし、いざ、やると難しかったです。電気モーターの整備は、なれない機械でとても難しかったです。しかし、とても楽しくできました。この4日間、とても勉強になりました。インターンシップで学んだことを、今後活かしたいです。本当にありがとうございました。

# 従業員とのかかわり

リケンテクノスグループでは、社員一人ひとりが「仕事を通じて成長する」ことを目指しています。また、より良い環境で働くことができるよう様々な制度を設けています。

## 管理本部長メッセージ



リケンテクノス株式会社  
取締役 管理本部長  
くまのみどう  
熊埜御堂 真

### グループ人材育成の3つのコミットメント

「主役になって仕事を楽しむ」場の提供

「常に挑戦し、成長する」機会の提供

「笑顔で出てきて笑顔で帰る」環境の提供

リケンテクノスはベンチャー企業として生まれ、既に60年の歴史を持ちます。「いつまでも活力あふれるもの造りの会社であり続けるためには」を皆で問いかけて昨年策定したのが新経営理念「リケンテクノス ウェイ」です。人は自発的に仕事に取り組み、失敗を恐れず果敢にチャレンジすることによって、多くのことを学び、成長して行きます。人材育成の担当責任者としてやらなければならないことは、できるだけ多くの社員にチャレンジする「場」、「機会」を提供することです。組織横断的なチームを組成し、課題解決にあたるというプロジェクトチーム手法があり、現在当社には多数のプロジェクトチームが立ち上っております。これとは別に、社員が自発的にプロジェクトチームを作り、自らが掲げた目標にチャレンジするという「チャレンジプロジェクト制度」を導入いたします。プロジェクト活動の中で、「主役になって仕事を楽しむ」、「常に挑戦し、成長する」を実感してもらおうとする試みです。社員が生き生きと働き、明るく、チャレンジングな、「笑顔で出てきて笑顔で帰る」—このような組織づくりを目指しています。

## プロジェクトの推進

リケンテクノスでは、プロジェクトチームによる業務が多く行われています。様々な組織からメンバーが選出され、決められた時間軸の中で成果を挙げるのが求められて

います。プロジェクトメンバーは、力を合わせて課題解決に取り組むことで成長することができます。進行中のいくつかのプロジェクトをご紹介します。

### ◆ PT. リケンインドネシア

#### 医療用塩ビコンパウンド製造工場新設プロジェクト



生産革新部  
小林 和彦  
プロジェクトリーダー

インドネシアでの医療用コンパウンド工場新設プロジェクトに係ることになりました。当プロジェクトは東南アジアで拡大する医療用コンパウンド需要への対応、および同コンパウンドのRiken(Thailand)一極集中へのリスク分散の意味合いがあります。PT.Riken Indonesiaでの勤務経験を活かせる良い機会と捉えて取り組んでいます。プロジェクトチーム一丸となって来年3月には確実に立ち上げたいと思います。

### ◆ リケンファブロ統合プロジェクト



経営企画室  
川合 雅二  
プロジェクトリーダー

三井化学株式会社の100%子会社である三井化学ファブロ株式会社を統合し、10月1日より新社「リケンファブロ株式会社」立ち上げのためのプロジェクトです。

新社立ち上げに向け、10以上の分科会をスタートさせておりますが、PJメンバーの多大な協力を得て垂

直立ち上げをめざしています。今回の統合を成功させるには両社の融和が特に大事であると思っています。

今回の統合は、会社にとっても大きな投資であり、厳しい環境にある食品包材事業にとって、業界のトップリーダーになるチャンスであり、10月1日立ち上げはその通過点であり、新生リケンファブロの存在感がだせるよう、一員として頑張りたいと思います。

## 従業員とのかかわり

### ◆ BCPプロジェクト



コンパウンド営業部  
産業資材グループ  
川嶋 寛  
プロジェクトリーダー

BCPプロジェクトは「当社事業を取巻く様々な環境変化においてコンパウンド事業への影響を最小限に抑え、1ヶ月以内に生産・販売ができる体制を構築すること」をコンセプトに進めています。

全社に展開できるようなモデルケースの作成、今後も継続的に活用して行くためのマニュアル化をプロジェクトメンバー一丸となって進めています。

### ◆ 決算説明会プロジェクト



経理部  
越智 清隆  
プロジェクトメンバー

今年度より機関投資家向けの決算説明会を開催することになり、私もプロジェクトに参画しました。プロの投資家がどのような情報を必要としているか分からない中で、情報を集め、プロジェクトメンバーと議論したことは大いに刺激になりました。今回のプロジェクトで感じた「上場企業は常に外部から見られている」という感覚を大切に、より良い決算説明会にしていきたいと思っています。

### ◆ 埼玉工場 強いもの造り設備プロジェクト

生産革新部フィルムグループ 森下 敏美プロジェクトリーダー

埼玉工場フィルム部門の生産設備は、導入後40年以上経過している設備も有り、老朽化が進んでいます。100年企業を目指し、今まで以上に「強いもの造り」をするために当PJを発足しました。PJ活動では、過去の事例に囚われず、既成概念を払拭し、社内研修で学んだ手法を活かして、次世代の生産方法・設備レイアウトについて、メンバー全員で討議を重ねています。今、仕事を楽しみながら、皆で新しいことにチャレンジしています。



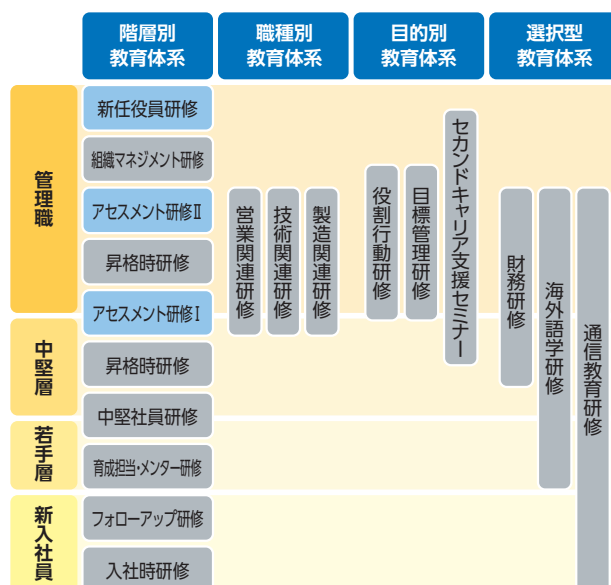
## 経営層の育成

経営補佐層の方々を対象に「組織マネジメント研修」を実施しています。戦略的思考とプロセス管理力の獲得を目的に、各プロジェクトを成功させるべくアクションラーニングを行っています。

## 人材育成の考え方

企業の成長は、社員一人ひとりの成長によって支えられています。「私たちは応援します！自ら成長しようと努力するひとを！」をスローガンに、努力している社員を応援し、社員も会社も成長していく相互成長の関係を築ける体制づくりを行っています。その施策として、自己申告制度を導入して一人ひとりの志望・要望と元気度などを面接を通じて把握し、より成長できる環境づくりにつなげています。また、会社の求める人材像として「自立・創造・実践できる人」を掲げ、各人が役割に応じた行動を確実に実践するように人事制度上も役割行動考課を導入し、「仕事を通じて成長する」ことを図っています。これらの活動を通じて、社員一人ひとりが成長し、会社が目指している高付加価値型企業基盤の確立の実現へつなげています。

### リケンテクノス教育プログラム



## 子育て支援

### ◆ 育児休業制度

最長2年間の休業ができます（男性も取得可能）。さらに育児休業の最初の3日間は有給とし、男性社員も取得しやすい環境としました。

### ◆ 育児短時間勤務制度

育児をしている社員が、1日6時間まで勤務時間を短縮できます。家庭や保育園などの個別事情に応じた働き方が選べます。小学校入学前まで利用できる制度です。現在は3名の社員が利用しています。

## 社員の多様性への対応

当社は社員の多様性、人格、個性を尊重し、人権および雇用機会均等などにも配慮をしています。当社では女性が活躍できるような様々な取り組みをしていますが、残念ながら現在、女性管理職はおりません。

## 再雇用制度

60歳を超える高齢者の活用は、会社にとっては技能伝承の面で、社員にとっては生活の安定という面で、双方にメリットがあります。そこでリケンテクノスでは2006年度から組合員層、管理職層を対象にした再雇用制度を導入しています。導入以来、対象年齢を63歳までとしておりましたが、2009年4月1日に本制度を改正し、最長65歳までを対象としております。

## 表彰制度

リケンテクノスでは表彰規程や職務発明制度を設けています。業務の効率化や企業体質の改革、社員のモチベーション向上につながる改善提案、発明などに対して表彰を実施しています。

## 安全衛生活動

### ◆ 安全衛生の考え方

当社は、人間尊重を基本とし、労働安全衛生を企業活動の最も重要な基盤のひとつと考え、健康で安全な職場環境の維持向上に努めます。

### ◆ 「リスクアセスメント」による危険・有害源撲滅活動の定着

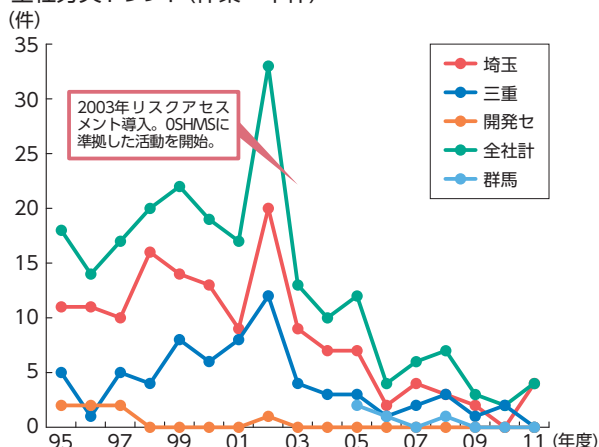
2003年にリスクアセスメントを導入後、職場に潜在している危険・有害要因を排除・隔離し、リスクを低減させる未然防止型の改善活動が定着しました。

「災害ゼロ」から「危険ゼロ」となるように先取り型の改善活動が全員参加で強力に進められています。

### ◆ 労災件数

労災件数は、2009年度3件、2010年度2件、2011年度は残念ながら4件でした。特記事項としては、三重工場（250人）での労働災害ゼロを達成いたしました。

全社労災トレンド(休業+不休)



### ◆ ヒューマン・エラーによる災害の防止

究極の目標である「災害ゼロ」「危険ゼロ」を達成させるための今後の取り組みとして人的要因（ヒューマンファクター）に起因する災害を予防して行きます。

人は何故ミス・エラーするのか、真の原因を究明し予見される誤使用に対し、基本的な安全および安全防護についての措置をとって行きます。

### ◆ 緊急事態対応

各サイト・各部門で緊急事態対応一覧表を作成し、定期的に訓練を実施しています。特に、化学物質の社外への流出防止および消防法危険物起因の火災予防を最重点課題として取り組んでいます。

## 従業員とのかかわり

### 奨学金制度

リケンタイランドカンパニーリミテッドでは、2012年度の奨学金を社員の成績の良い子供に付与しました。

今年は16人の小学生が対象になりました。

### リケンタイランドカンパニーリミテッドの2012年度奨学金付与式



#### 奨学金を受けた子供達

ティティマー  
ミーウサー ちゃん  
小学1年生

QA担当  
プーワドン  
ミーウサー  
のお子さん



ウィパーウィー  
プーウィパーク ちゃん  
小学2年生

医療用製造担当  
ウィルット  
プーウィパーク  
のお子さん



チェーンチャー  
ティラポン ちゃん  
小学2年生

製造管理担当  
ナルモン  
ルンチャイパイブンスック  
のお子さん



ワシポーン  
ソーマピー ちゃん  
小学2年生

物流担当  
ワライラット  
ソーマピー  
のお子さん



シュティカーン  
アムパイ ちゃん  
小学3年生

QA担当  
プラウィット  
アムパイ  
のお子さん



タナドーン  
ボンセーン くん  
小学3年生

製造管理担当  
ワーサナー  
ボンセーン  
のお子さん



ナツシャヤー  
ウォンチャランターウォーン ちゃん  
小学4年生

総務担当  
スナンター  
チャイチャラン  
のお子さん



アーシャヤー  
トーンカム ちゃん  
小学4年生

出荷担当  
サタナカモン  
トーンカム  
のお子さん



パッソーン  
パッシム ちゃん  
小学4年生

医療用製造担当  
チャイヤコーン  
パッシム  
のお子さん



リンラダー  
サンマニー ちゃん  
小学4年生

SHIPPING担当  
ジューターマース  
クワンターウォーン  
のお子さん



タワンチャーイ  
スリーチュイサーイ ちゃん  
小学4年生

医療用製造担当  
スラサック  
スリーチュイサーイ  
のお子さん



シュティモン  
ムアンガーン ちゃん  
小学4年生

エンジン担当  
スックプラディット  
ムアンガーン  
のお子さん



サローシャヤー  
シュムシャート ちゃん  
小学5年生

医療用製造担当  
モンتری  
シュムシャート  
のお子さん



ウィーラパット  
プラッシャヤーブン くん  
小学5年生

医療用製造担当  
スッティポーン  
プラッシャヤーブン  
のお子さん



ナツパット  
ヨッタナ くん  
小学5年生

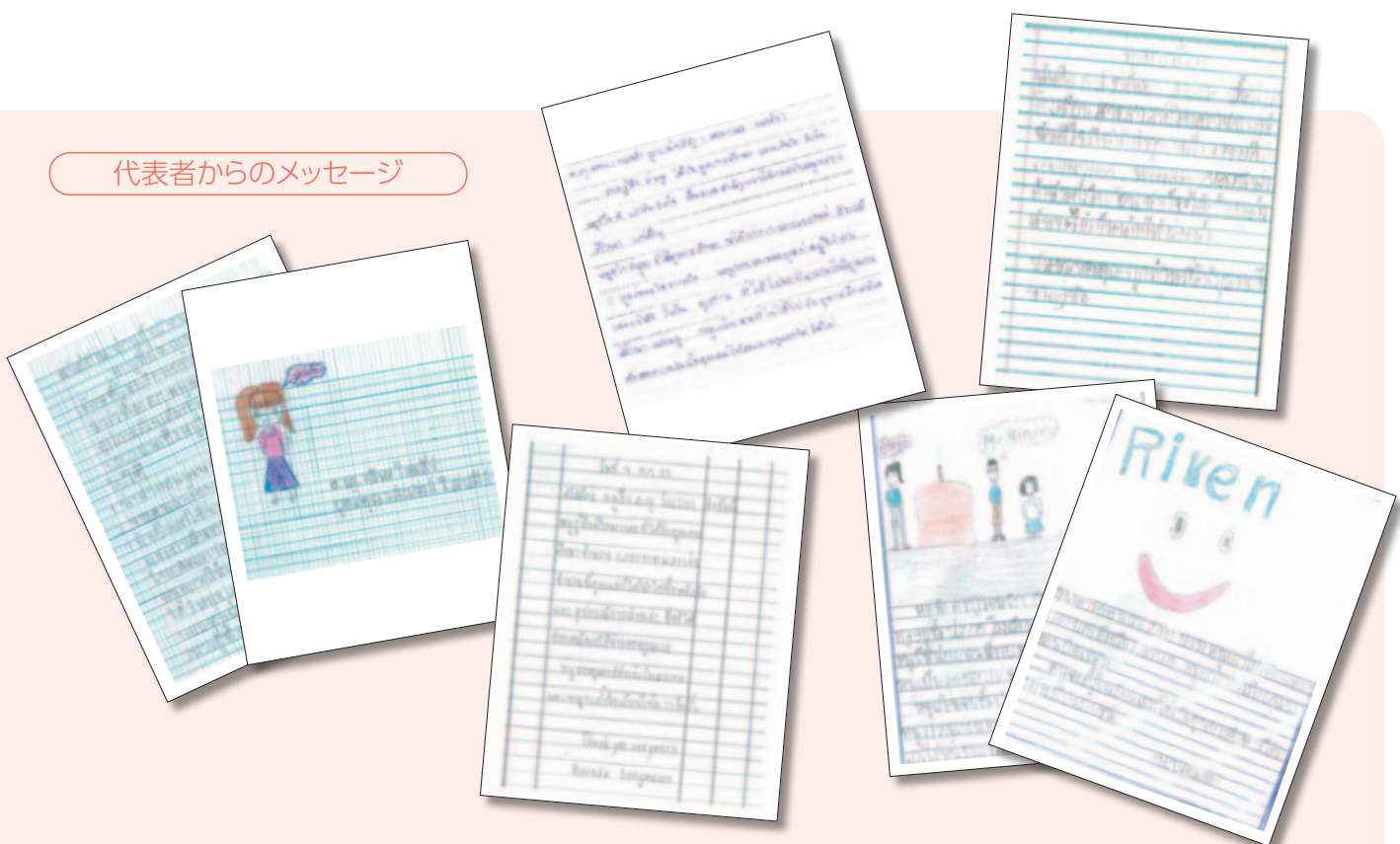
医療用製造担当  
ウイナイ  
ヨッタナ  
のお子さん



ターラーラット インガーム ちゃん  
小学5年生

医療用製造担当  
プリーシャヤー インガーム  
のお子さん

代表者からのメッセージ



● 私はチェーンチャー ティーラボンと申します。8歳です。小学校2年生です。兄と2人兄弟です。小学校1年生の成績はグレードA取れました。偉いだと母がほめてくれました。母が働いている会社から私の奨学金を申し込んで3,000バーツの奨学金がもらえると母に聞いて、とても嬉しいです。銀行に1,000バーツ預けて、コンピュータの授業料に1,000バーツ払って、残り1,000バーツは学校の休みにクモンという塾で勉強します。私は真面目に勉強して、頂戴した奨学金を有用に使うつもりです。有難うございました。

● 私はワシポーン ソーマピーと申します。小学校2年生です。奨学金3,000バーツを下さって、有難うございました。そのうち、1,000バーツを銀行に預けて、後1,000バーツをコンピュータの授業料に払いました。残りは文房具と、週末のタイダンス訓練コースの交通費に使いました。社員の子供達が私と同じように奨学金をもらって、私と同じように有用に使ってほしいです。経営者が教えた通りに、真面目に勉強したいと思います。

● こんにちは。私はタナンドーン ポンセーンと申します。サーラサードウィテースラーチャプルック小学校3年生です。父母が働いている会社から奨学金を頂戴してとても嬉しいです。真面目に勉強したら、偉い人になると父母から教わりました。奨学金を下さった方々、有難うございました。

● こんにちは。私はリンラダー サンマニーと申します。3,000バーツの奨学金を頂戴してとても嬉しいです。母が本と文房具を買うのに使いました。母の費用を支援できて良かったです。リケン社、どうも有難うございました。前よりも真面目に勉強するつもりです。

● 私はアーシャヤー トーンカムと申します。リケン社が子供達の勉強を推進して下さって、嬉しいです。金額は大きくありませんが、母の負担を少し減らすことができ、最も嬉しいです。付与式当日、母の調子が悪くて参加できなくて残念でしたが、リケン社の経営者の皆さん、私に奨学金を下さって、有難うございました。

(現地社員による日本語訳です)

# 環境管理活動

## 環境方針

あらゆる企業活動において環境との調和に配慮し、地球環境の保全と持続可能な社会を実現するために、環境マネジメントシステムを構築し、全員参加のもとに次の事を実施します。

- ① 事業活動において、環境法規及びその他の合意事項の遵守のみならず、自ら規定類を定め、環境管理レベルの継続的改善、環境汚染の予防を推進します。
- ② 安全性の確保された原材料を使用し、省エネ・省資源型製品、リサイクル適合製品、生態系への負荷の少ない製品等の環境に配慮した、さまざまな素材のプラスチック製品等を社会に供給します。
- ③ 可能な限り無駄を削減し、原材料の有効利用、使用エネルギーの極小化に努め、二酸化炭素排出量の削減と産業排気物の削減を行い、地球環境・生態系への負荷を軽減します。
- ④ 環境方針を含め社内規定類を文書化し、社員への教育・啓蒙活動により、継続的な環境保全活動の定着化を図ります。
- ⑤ 環境方針達成のために環境目的及びできる限り数値化した目標を設定し、定期的に自己評価を行い、進捗を適時管理します。
- ⑥ 以上の活動を当社グループの活動に結び付け、各拠点における地域環境・生態系保全に最大の配慮を行い、安全な操業を確保します。
- ⑦ 適切かつ正確な情報開示を行い社会からの信頼と理解を得ることに努めます。

## ISO14001 認証取得

環境方針を設定し、全社全部門にて同規格を認証取得しています。

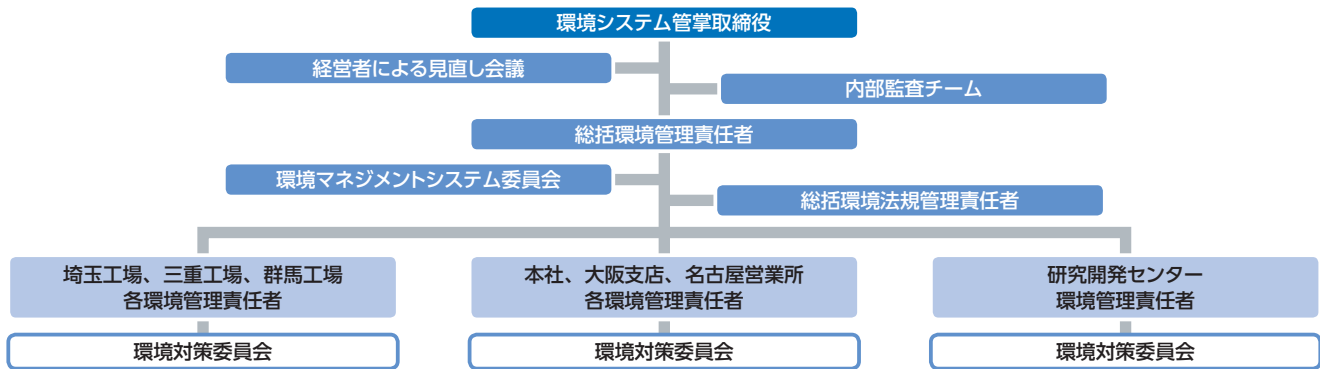
初回登録 2001年10月31日 有効期限 2013年8月30日

環境との調和に配慮した企業活動を通じ、豊かな社会の実現に貢献し、全てのステークホルダーからの信頼に応える企業の構築に取り組んでいます。

## 環境マネジメントシステム

### 環境マネジメントシステム組織図

環境システム管掌取締役がトップに立ち、総括環境管理責任者の指揮のもと、各サイトに環境管理責任者を置き環境マネジメントシステムを構築しています。



### 推進体制

環境に関する主要な会議、委員会等の構成メンバー、機能を示します。

会議、委員会名	構成メンバー	機能
経営者による環境マネジメント見直し会議	全取締役、総括環境管理責任者	方針、目的および環境マネジメントシステムの妥当性評価
内部環境監査チーム	有資格内部監査員	適合性監査の実施
環境マネジメントシステム委員会	総括環境管理責任者、環境対策委員長、エンジニアリング部長、総括環境法規管理責任者	全サイトの環境目的・目標の審議・承認、環境マネジメント監査の実施
環境対策委員会	環境管理責任者、各部門長、各部門委員	環境目的・目標の設定、是正処置・予防処置の審議、環境問題の審議



## 総括環境管理責任者と環境管理責任者の役割

全社統括管理と各サイト管理の責任を明確にしました。

責任者名	役職名	役割
総括環境管理責任者	環境安全品質推進室長	全社の環境マネジメントシステムの構築・実施・維持
環境管理責任者	サイトの責任者(工場長等)	サイトの環境マネジメントシステムの構築・実施・維持

## 環境監査の体制

### (1) 内部監査

総括環境管理責任者の指示のもと、約100名の内部監査員によって毎年1回、品質、製品安全、化学物質管理を含み、環境マネジメントシステムの内部監査を行っています。2011年度は68部署で監査が実施され、21件の是正処理要求書が発行され、観察事項を含めると85件の指摘件数がありました。文書管理、記録管理に関する事項が多い状況でした。是正処置の実施により引き続きマネジメントシステムの改善・確実な実施を図っていきます。

### (2) 外部監査

外部審査機関の日本海事検定キューエイ(株)による定期審査を、本社・埼玉工場・群馬工場を対象に受審いたしました。2011年度は、軽微な不適合1件、改善事項16件の指摘が有りました。環境目標が達成困難となった状況での対応について指摘があり、改善に取り組みました。また、2011年度は8社の顧客の監査を受けました。指摘・要望事項は特にありませんでした。

## 従業員の環境教育・啓発の実施状況

2008年度から、エネルギーの大切さ、地球温暖化(二酸化炭素排出)への意識向上を図ることを目的に従業員そしてその家族を対象に日常生活における「エコライフDAY」アンケートを実施しています。2011年度は従業員とその家族から(夏:1,083名、冬:899名)回答が寄せられ、一人当たりの平均二酸化炭素削減量は(夏:962g-CO<sub>2</sub>/日、冬840g-CO<sub>2</sub>/日)でした。また、CSR報告

書を社員全員に配布し、一人ひとりの活動結果が及ぼす当社全体への影響を理解するよう啓発しています。

	参加者数(名)	削減量(g-CO <sub>2</sub> /人・日)
2008年度夏	509	792
2009年度夏	698	858
2009年度冬	694	800
2010年度夏	945	721
2011年度夏	1,083	962
2011年度冬	899	840

## 緊急時対応

各サイト・各部門で想定しうる緊急事態を定め、緊急事態対応一覧表を作成し、定期的に訓練を実施しています。当社は多量の化学物質・消防法危険物を原材料として購入・使用しているため、化学物質の社外への流出防止お

よび消防法危険物起因の火災予防を最重点課題として取り組んでいます。2011年度は少量の樹脂・可塑剤の漏洩がありましたが、工場外への流出は無く、訓練どおり対応されました。

## 事業活動に係る環境法規・協定

各生産工場、各営業拠点での遵守すべき環境法規・協定等およびその概要を「環境適用法規基準」にて明確にし、環境法規についての遵守を徹底しています。2011年度の活動の結果、環境に関する法規・協定に対する違反はありませんでした。

### 拠点ごとの遵守すべき環境法規・協定等の件数

埼玉工場	31件	大阪支店	3件
三重工場	28件	名古屋営業所	3件
群馬工場	24件	研究開発センター	21件
本社	4件		

# 活動結果の概要

## 2011年度環境目標と実績

当社は毎年環境方針を基に、事業環境に見合った環境目標を設定し、改善活動を進め、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出量削減、産業廃棄物の排出量削減そして化学物質の管理

強化を主テーマとして全社横断的に取り組んでいます。2011年度は、全社各部署合計で152件の目標が設定され、103件（68%）が達成されました。以下に詳細を示します。

### (1) CO<sub>2</sub>排出削減

目標設定件数	達成件数	目標	結果
48	32 (68%)	総排出量削減：2008年度比3%削減 生産量比削減：2008年度比3%削減	2011年度のCO <sub>2</sub> 排出量は38,934t-CO <sub>2</sub> で、2008年度比3%減少。生産量比では0.434t-CO <sub>2</sub> /製品tで2008年度比15%削減しました。

### (2) 産業廃棄物削減

目標設定件数	達成件数	目標	結果
22	9 (31%)	単純廃棄物量の総生産量比:0.5%以下 総廃棄物量の生産量比:5%以下	単純廃棄物量の総生産量比0.22%で、2011年度目標をクリアしました。総廃棄物量の生産量比は、4.83%でした。

### (3) ①化学物質管理の強化と②環境配慮型製品の開発

	目標設定件数	達成件数	目標	結果
①	65	54(83%)	独自に指定した化学物質の使用削減、使用停止。環境配慮製品の開発。	化管法第一種指定化学物質の2011年度使用量は、3,335tで、2001年度比53%削減しました。
②	10	8 (80%)		

\*単純廃棄物：単純に埋立あるいは焼却処理された廃棄物

## 製造本部長メッセージ



リケンテクノス株式会社  
取締役 製造本部長  
**大河内 義孝**

### 3つのコミットメント

1. 省エネルギーの取り組み強化
2. CO<sub>2</sub>排出量削減  
(環境目標 2008年度比4%削減)
3. 廃棄物排出量削減  
(環境目標 総生産量比5%以下)

当社の事業活動から、温室効果ガス、産業廃棄物の排出があり、これらの削減を環境目的として掲げ、環境負荷低減に取り組んでいます。また今年度は夏季の電力不足、4月以降の電気代の大幅アップがあり、電力使用量削減が重要課題となっています。そのため省エネルギーへの取り組みを昨年以上に強化し、環境負荷低減を進めます。事務部門の消灯、温調管理による電力使用量節減は、東日本大震災の影響で電力供給が逼迫した昨年同様に進め、製造部門では、製造設備の省エネ稼働を強化し、省エネ設備の導入を積極的に進めます。具体的にはエネルギー効率の悪いモーターの更新、照明器具のLED化などです。また、電力使用量削減、排出CO<sub>2</sub>削減を目的とした再生可能エネルギーである太陽光発電設備の設置検討も進めています。

## リケンテクノスの環境負荷の状況

当社の事業活動からは、産業廃棄物の排出、温室効果ガス（二酸化炭素）の排出、化学物質の排出・移動が大きな環境負荷項目として挙げられます。各々排出削減や適正管理に努めています。リケンテクノス全事業所（単体）での環境負荷実態を記載します。

### 生産に係わる製品1トン当たりのCO<sub>2</sub>負荷量（2011年度）

インプット		アウトプット	
原材料（塗料等含む）	86,000t	コンパウンド製品	62,000t
梱包資材	3,200t	フィルム製品	12,000t
電気	68,575MWh	包装用ラップ製品	7,200t
重油	3,425kl	総廃棄物	4,300t
水道水	131,999m <sup>3</sup>	排水量	286,700m <sup>3</sup>
地下水	145,824m <sup>3</sup>		
工業用水	8,879m <sup>3</sup>		

CO <sub>2</sub> 負荷量 (t-CO <sub>2</sub> /t)	
コンパウンド	0.22
フィルム	0.90
包装用ラップ	0.40

## 省エネルギーと温室効果ガスの排出削減

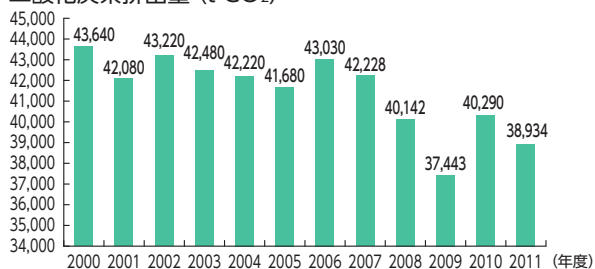
当社は埼玉工場、三重工場が第一種エネルギー管理指定工場に指定され、群馬工場は第二種エネルギー管理指定工場に指定されています。当社の事業活動から生じる温室効果ガスの主なものはCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）です。二酸化炭素の排出量削減の目標として「2012年度に2008年度比4%削減」を掲げ活動を展開しています。設備の稼働効率向上、空調機のデマンド制御\*1、工業用圧搾空気・蒸気の漏れ防止管理等の省エネ活動を推進しています。なお、空調機の冷媒フロンは温室効果ガスであり、使用・廃棄時漏れないよう管理の徹底を図っています。東日本大震災の影響を受け、埼玉工場では生産機の稼働

を当番制で平日停止・休日稼働を実施し平日のピークカットに努めると共に、製品の一部を三重工場への生産移管をしました。また、全社的に工場においては省エネ設備の導入、事務所においては照明の点灯削減等に取り組みました。その結果、生産量は前年度と同等を確保しながら、CO<sub>2</sub>排出量を削減できました。

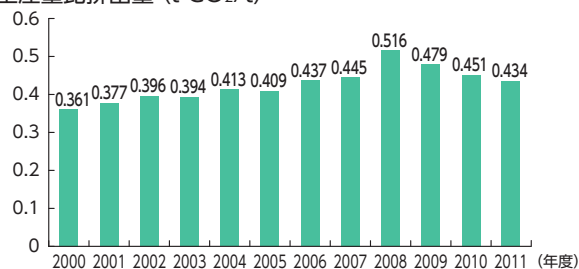
2011年度の排出量は38,934トン（CO<sub>2</sub>換算）で、2008年度比3%削減、2002年度比では9.9%削減になりました。

群馬工場の敷地内に再生可能エネルギーである太陽光発電設備導入の検討を進めています。

二酸化炭素排出量 (t-CO<sub>2</sub>)



生産量比排出量 (t-CO<sub>2</sub>/t)



- \*1 空調機のデマンド制御とは、電力会社との契約電力の最大値に近づいた時、自動的に空調機の圧縮機を停止させ電力の消費を抑える制御方法をいいます。
- \*2 温室効果ガスは、埼玉工場、三重工場、群馬工場、研究開発センター、本社および各営業拠点で使用した電気、重油等の消費によるCO<sub>2</sub>排出量を算出しました。2005年より本社を、2008年度より各営業拠点を含みCO<sub>2</sub>排出量を計上しています。物流における石油燃料消費のCO<sub>2</sub>排出量は除いています。

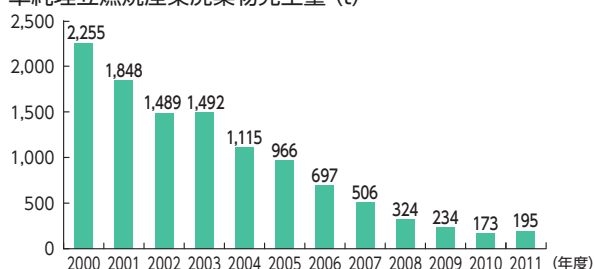
## 廃棄物の削減

当社は、製造段階で発生する埋立・焼却廃棄物の削減を環境管理活動の主課題に位置付け、目標として「2012年度単純廃棄物量の総生産量比0.5%」を掲げ活動を展開しています。工程改善による歩留り向上等により、廃棄物の発生そのものの抑制を図るとともに、発生した廃棄物に関しては分別を徹底し、マテリアルリサイクル、サー

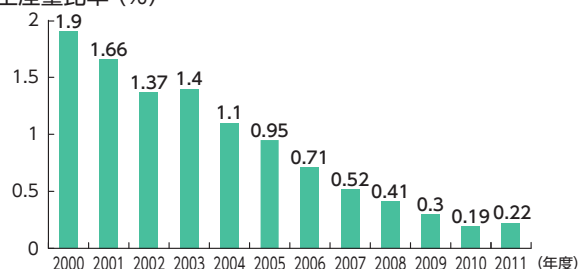
マルリサイクル、RPF（プラスチック由来の固形燃料）、セメント原料化等の有効利用への転換を図っています。

削減活動の結果、2000年度の埋立・焼却廃棄物発生量2,255トンに対し、2011年度は195トンで、91.4%削減しました。

単純埋立焼却産業廃棄物発生量 (t)



生産量比率 (%)



\*埼玉工場、三重工場、群馬工場、研究開発センターで発生した単純埋立焼却廃棄物量です。

## 活動結果の概要

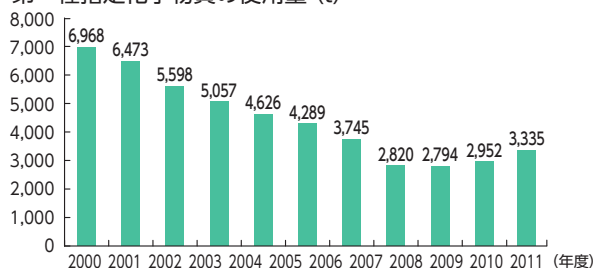
### 化学物質の適正管理

当社は、従来から化学物質審査規制法、労働安全衛生法や消防法等に基づき、化学物質管理を実施していましたが、2001年4月より化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）が施行されました。管理の徹底のため、当社も1999年度に集計システムを構築いたしました。

2009年10月の化管法改正施行によりPRTR対象化学物質の種類変更がありました。新対象化学物質での使用や排出量等の集計は2010年度から実施されました。A重油に含まれるメチルナフタレン、41トンと2011年度使用量集計に追加しました。2010年度の化管法第一種指定化学物質の使用量は、3,335トンと2001年度比53%削減でした。2010年度から増加しました理由は、

前述のメチルナフタレンの件と弊社グループ会社のリケンタイランドコーポレーション（洪水被害）の代替支援生産によるものです。第一種指定化学物質の使用数は、2011年度25種類でした。うち1トン以上使用し国へ届出したものは7種類でした。

第一種指定化学物質の使用量 (t)



### PCB廃棄物の保管状況

2001年7月、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」（PCB<sup>\*1</sup>特別措置法）が施行されました。グループ全体での管理強化のため2005年度中に関係会社で保管していた6台の廃PCB機器を埼玉工場に移動・保管しました。埼玉工場、三重工場、研究開発センター（蒲田）の3事業所ではPCB廃棄物として主に高圧コンデンサを適切に保管管理しています。2012年8月には、研究開発センター（蒲田）で保管中の高濃度PCB廃棄物が国指定の処理施設で処理されました。他のサイトにおいても順次、適正に処分される計画です。

また、1989年以前の重電機器には微量のPCBが含有された絶縁油が使用されている可能性が高いため、使用中のコンデンサ・トランスを順次、調査分析を進めています。

事業所名	PCB廃棄物	保管方法
埼玉工場	高圧コンデンサ 15台（高濃度）	鉄製容器に保管
	高圧トランス 2台（低濃度）	
	PCB含有廃水・廃油 1,446L（低濃度）	
研究開発センター（蒲田）	高圧トランス 1台（低濃度）	鉄製容器に保管
	PCB含有廃油 330L（低濃度）	
	PCB含有ウェス 15kg（低濃度）	
三重工場	高圧トランス 4台（低濃度）	鉄製容器に保管
	PCB含有廃油 350L（低濃度）	
	PCB含有ウェス 300g（低濃度）	

\*1 PCB：Polychlorinated Biphenyl（ポリ塩化ビフェニル）の略称

### ストック汚染・公害防止の取り組み

2001年に各工場、事業所の調査を行った結果、旧蒲田工場に土壌汚染が確認され、土壌改質を継続しその状況を監視してまいりました。当該地の土壌改質工事を実施し、土壌汚染のない状態にし、2011年度に売却しました。また、この敷地を利用していました研究開発センターも隣接する敷地に移転しましたが、この敷地においても土壌汚染が確認されていることから、移転にあたり一部について汚染拡散防止措置を講じました。

各サイトでは、環境法規制および自主規制監視項目について定期的に測定を実施しています。項目として排ガス、地下水、騒音、振動、臭気、放射線、粉塵などがあり、特に騒音対策に配慮しています。各工場では近隣住民の皆様と懇談会を定期的に開催させていただき、環境測定値の公開、工場内の査察の実施を通じ当社の事業活動へのご理解をいただいています。

## 特定化学物質規制への対応

原材料管理については、欧州におけるREACHへの対応、また日本における化学物質に関する諸規制の改正への対応をより充実するため、JAMPに準じ当社独自化学物質含有情報シートを作成し、2009年8月からRoHS6物質の測定データ、微量残留化学物質を含めた規制対象化学物質の含有情報を入手することとしました。そして関係会社への適用も明確にし、「リケンテクノスグループグリーン調達基準」としました。

お客様に安心・安全な商品を提供することはメーカーの使命であり、使用する化学物質の安全性を確保すること

は当社の重要課題として捉え、2006年度に全社横断的な組織である「化学物質管理委員会」を新たに設置しました。『化学物質管理指針』を設定し、法律で製造・使用が禁止されている化学物質は勿論、化学物質審査規制法の監視化学物質なども使用禁止とし、鉛やトルエンなど法律で使用禁止になっていませんが、労働安全衛生上使用を避けた方が安全と思われる化学物質を自主的に削減することを明確に意志表示しました。新規採用化学物質の審査などを実施し、全社を挙げて安全性最優先の商品を提供する仕組みを構築していきます。

## 生物多様性

化学物質審査規制法第1種・第2種特定化学物質および監視物質の不使用、PRTR第1種指定化学物質の使用削減等に取り組み、また大気汚染防止法、水質汚染防止法、

労働安全衛生法等を遵守して、人への影響、生態系への影響を配慮した製品開発、生産、販売を実施しています。

## 環境会計

当社は、環境保全活動への取り組みに関する会計情報を2006年度より開示しています。

### 2011年度環境会計の集計基準

- (1) 集計範囲：リケンテクノス全事業所（単体）
- (2) 対象期間：2011年4月1日～2012年3月31日
- (3) 参考文献：『環境会計ガイドライン2005年版』（H17.2環境省発行）

### 2011年度環境会計の総括

2011年度は、環境保全コスト投資額約1.4億円、費用額約10.1億円で合計約11.5億円でした。投資額の内訳は公害防止・地球環境保全・資源循環コストです。費用額ではRoHS指令対応のための分析費用やISO維持活動等があり、環境配慮型製品の研究開発費用が約8.1億円と非常に大きなウエイトを占めています。

活動の結果の環境保全効果として、PRTR対象物質使用

量は、洪水被災した関連会社のリケンタイ支援のために代替生産製品の影響があり増加しました。またCO<sub>2</sub>排出量については、生産量が前年度相当でしたが1,356t減少しました。

経済効果としては、廃プラ等の有価売却・省エネ等による費用削減等で約1,700万円発生しました。

## 活動結果の概要

### 環境保全コスト

単位：千円

分類	調査対象の取り組みの内容	投資額	費用額
1. 事業エリア内コスト		140,130	104,843
*公害防止コスト	騒音対策工事、飛散防止設備の維持管理	0	64,656
*地球環境保全コスト	省エネ設備の導入・改善	140,130	0
*資源循環コスト	産廃処理、リサイクルコスト等	0	40,187
2. 上・下流コスト	製品含有化学物質分析費用	0	15,860
	容器包装リサイクル委託費用等	0	93
3. 管理活動コスト	CSR報告書発行、ISO維持活動(外部審査費用) 排水・VOC分析、構内緑地管理費等	0	15,306
4. 研究開発コスト	環境配慮型製品の研究開発費	0	813,402
5. 社会活動コスト	工場周辺美化活動費、寄付金	0	377
6. 環境損傷対応コスト	土壌調査改質費	0	61,628
合計		140,130	1,011,509

### 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標	2010年度	2011年度	
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (GJ)	828,900	807,323	
	種類別エネルギー投入量	電気 (MWh)	70,172	68,575
		重油 (KL)	3,592	3,425
		灯油 (KL)	0	0
		ガソリン (KL)	49	49
		軽油 (KL)	15	25
	PRTR管理対象物質投入量 (t)	2,952	3,294	
	水資源投入量	水道水 (m <sup>3</sup> )	143,497	131,999
		地下水 (m <sup>3</sup> )	191,139	145,824
		工業用水 (m <sup>3</sup> )	14,778	8,879
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	40,290	38,934	
	PRTR管理対象物質排出量 (t)	2.6	3.6	
	PRTR管理対象物質移動量 (t)	11.7	18.7	
	廃棄物等総排出量 (t)	4,579	4,336	
	廃棄物最終処分量 (t)	173	194	
	排水量 (m <sup>3</sup> )	336,743	286,700	
事業活動から産出する財・サービスに関する環境保全効果	容器包装使用量 (t)	3,222	3,200	
その他の環境保全効果	製品等の輸送量 (トンキロ)	30,075,000	31,320,894	
	輸送に伴うCO <sub>2</sub> 排出量 (t)	5,220	5,438	

### 環境保全対策に伴う経済効果

単位：千円

効果の内容	金額	
	2010年度	2011年度
プラスチック・紙屑等の再資源化による利益	6,296	6,226
省エネ等による費用削減	2,763	10,697
合計	9,059	16,923

### ◆ 資産除去債務について

2012年3月末現在 単位：千円

資産除去債務に関する会計処理は2010年4月1日より適用が始まりました。現時点での環境関連法令規定による資産除去債務を、次のように把握しています。

費用内容	処理費用
建物現状回復費	26,689
石綿使用部位の処理費	32,968
PCB使用設備更新費	3,729
土壌汚染処理費	53,891
合計	117,278

## リケンテクノスグループ環境データ

### リケンテクノス工場別環境データ

#### ◆ 埼玉工場

- 敷地面積：58,739m<sup>2</sup>
- 事業内容：塩化ビニル樹脂をはじめとする各種熱可塑性樹脂のコンパウンド、フィルムおよびラップフィルムの生産
- 従業員：283名

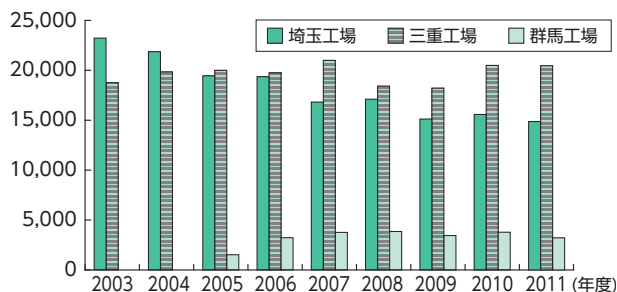
#### ◆ 三重工場

- 敷地面積：54,848m<sup>2</sup>
- 事業内容：塩化ビニル樹脂をはじめとする各種熱可塑性樹脂のコンパウンド、フィルムおよびラップフィルムの生産
- 従業員：246名

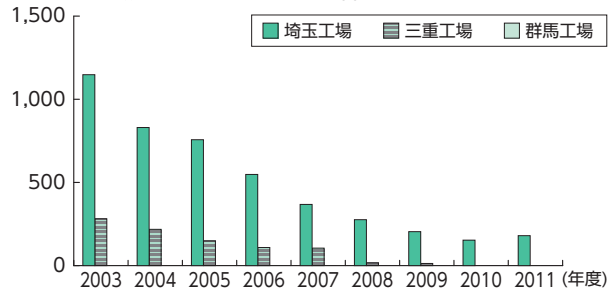
#### ◆ 群馬工場

- 敷地面積：55,904m<sup>2</sup>
- 事業内容：クリーン環境下での高性能フィルムの製造
- 従業員：39名

二酸化炭素排出量 (t-CO<sub>2</sub>)



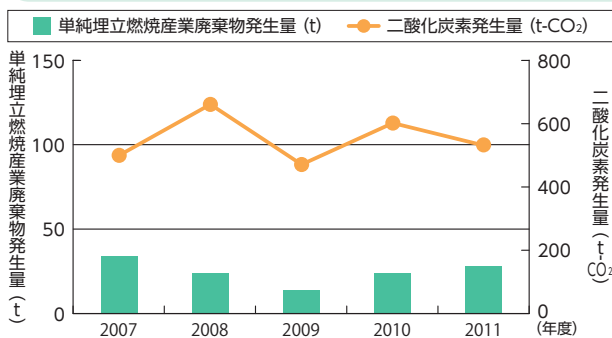
単純埋立燃烧産業廃棄物発生量 (t)



### リケンテクノス関連会社環境データ

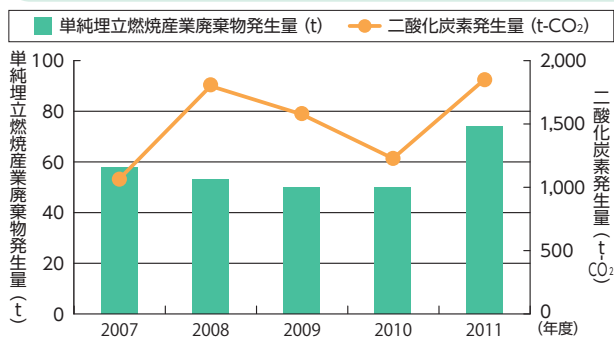
#### 進興電線株式会社

従業員数 61名



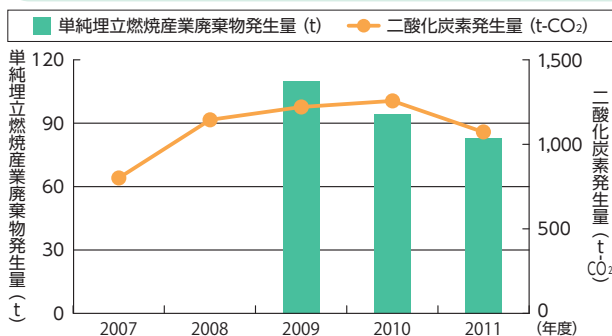
#### 株式会社協栄樹脂製作所

従業員数 45名



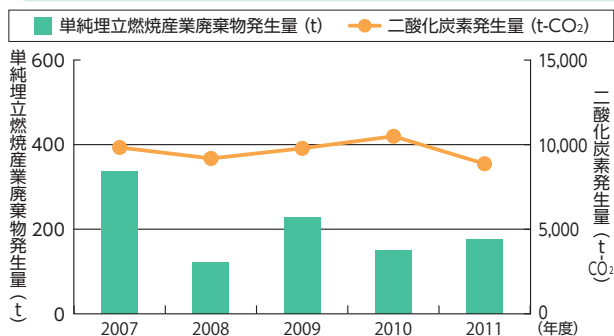
#### エムアイ化成株式会社

従業員数 48名



#### RIKEN(THAILAND)CO.,LTD.

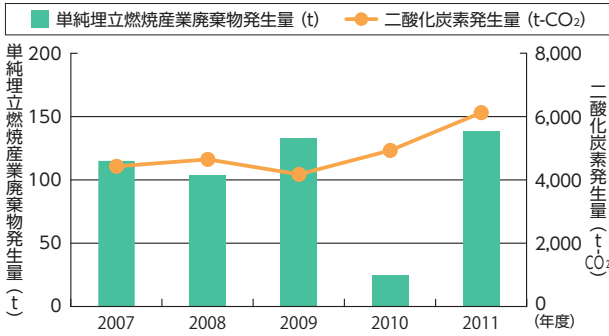
従業員数 227名



# 活動結果の概要

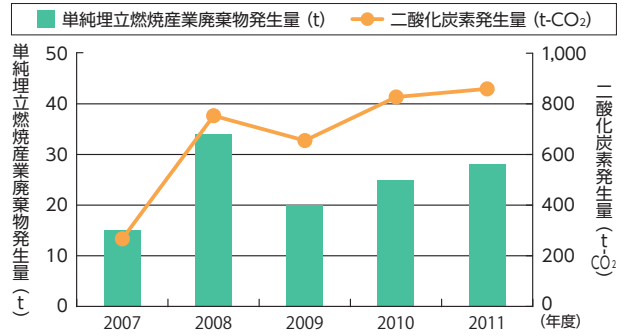
## RIMTEC CORPORATION

従業員数 96名



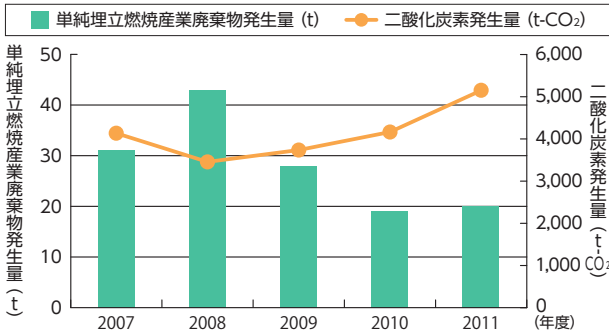
## RIKENELASTOMERS CORPORATION

従業員数 16名



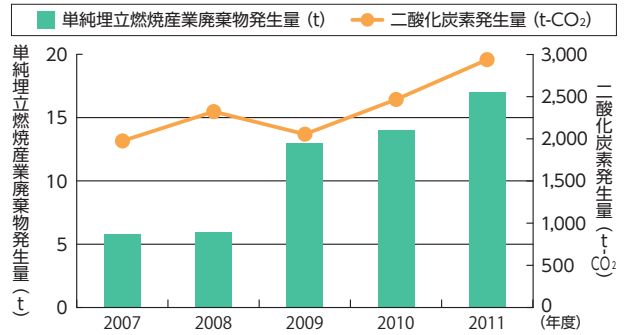
## PT. RIKEN INDONESIA

従業員数 146名



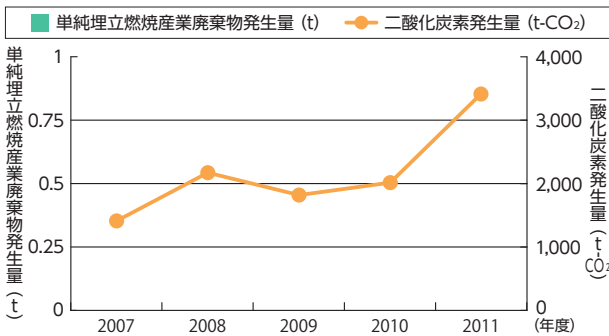
## SHANGHAI RIKEN TECHNOS CORPORATION (上海理研塑料有限公司)

従業員数 98名



## RIKEN TECHNOS (JIANG SU) CORPORATION (理研食品包装(江蘇)有限公司)

従業員数 25名





## 有識者の意見



株式会社インターリスク総研  
コンサルティング第一部  
環境グループ  
シニアマネージャー・上席コンサルタント  
成蹊大学 非常勤講師  
いかり まさとし  
**猪刈 正利 氏**

今回でリケンテクノスグループとして6回目のCSR報告書の発行になります。昨年はグローバルな視点からCSR経営の着眼点や課題について再検討されること推奨いたしました。そして今年の特集では、年々拡大するアジア拠点の売上高や現地採用従業員数、そしてBCPの観点から経営上の課題となった2011年10月のタイ大洪水も受けて、「躍進するアジア」が特集されています。この4ページの特集内容と、例えば冒頭の社長のごあいさつ「グローバル化とリスク分散」の重要性やタイ従業員の日本での代替生産への出張支援、そして社会性報告のプロジェクトの推進事例「PT.リケンインドネシアでの医療用塩ビコンパウンド製造工場新設プロジェクト」やタイ奨学金制度に対する小学生の真摯な謝意を表すコメント等々も、全て有機的に関連・連動していると解しました。このことから、リケンテクノスグループ新経営理念である「ミッション(きちんと開発し、しっかり造り、ちゃんと売る)他」および「コア・バリュー(信頼しあい貢献しあう)他」が実践されていることが、第三者にも十分に伝わるものと思われま

す。「リケンテクノスグループの概要」にあるコーポレートガバナンスでは基本的かつ重要な体制が記載されていますが、「リスク感応度」「(ステークホルダーの)信頼と期待」「時代へのアンテナ」というキーワードが目を引きました。これに関連してネガティブ情報である、労災事故の微増・化学物質の少量の漏洩・ストック汚染・資産除去債務等を開示していること自体は高く評価します。しかしながらもう少し詳しい各事象の説明や原因分析そして再発防止策について説明する方が、ステークホルダーの信頼と期待に応えるものと考えます。環境報告に関して、2011年度夏季は37年ぶりに電力使用制限令が発動される中、生産量は前年度とほぼ同等を確保しながら二酸化炭素排出総量の削減を達成された関係者のご尽力に敬意を表します。一方で、残念ながら廃棄物発生量が前年比微増となった原因を読み込むことができませんでした。最後に、環境報告のKPI(Key Performance Indicator)は充実していますが、社会性報告についてもより客観的な数値に基づく開示に向け工夫されることを期待します。

## 有識者の意見を受けて

リケンテクノス株式会社  
代表取締役社長

## 清水 浩

2011年は、東日本大震災やタイの大洪水など自然災害が頻発し、当社も大きな影響を受けました。自然の猛威をはじめとした不測の事態にいかに対応するかは、重要な経営課題です。当社としては、以前から推し進めているグローバル化をさらに加速させ、生産拠点を分散させると共に、生産の効率化もはかりながらリスクに対応してまいります。特に医療用コンパウンドなど人命にかかわる製品については、急ピッチでライン増設を行っております。

このようなグローバル政策のもと、CSR報告書として初めて海外拠点を特集に取り上げました。今回は、成長著しいアジア拠点を中心にご紹介いたします。1989年に最初にタイに生産拠点を設立してから20年以上経ち、アジア諸国と共に成長してきたリケンテクノスグループの企業活動の一端をご理解いただければと思います。

猪刈様よりご指摘いただいた廃棄物発生量が前年比微増となったことについて、歩留まりの向上など生産効率を高めることで、廃棄物発生量の削減に努力を行ってまいります。総廃棄物発生量(単純埋立燃焼廃棄物発生量+リサイクル廃棄物発生量)については昨年度比5%削減していることを補足させていただきます。また、「KPI(Key Performance Indicator)」につきましては、今秋にも、引き続き顧客満足度調査を行い、来年度の報告書にて結果を報告させていただきます。

昨年迎えた60周年をひとつの節目として、リケンテクノスグループは新たな歴史を刻むべく、挑戦をはじめいたします。これからもステークホルダーの方々と「信頼しあい貢献しあう」関係を保てるようCSR活動を積極的に推進してまいります。

## 編集後記

本報告書では、リケンテクノスグループのアジア拠点に初めて焦点をあてた特集を組みました。それぞれの地域に即したCSR活動が行われていることを少しでもご紹介できればと思います。本報告書を通じて当社のCSR活動をご理解いただくとともに、率直かつ忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

環境安全品質推進室：青木 秀明、栗原 仁  
経営企画室：新井 豊、吉岡 さやか

本報告書取扱部署代表者：経営企画室 熊埜御堂 真



# リケンテクノス ウェイ

私たちは科学の力で  
豊かさ、安心、快適を創り出す  
チャレンジメーカーです  
独創的で卓越した  
樹脂素材の配合加工技術で  
企業と人と社会に  
新たな価値と喜びを提供し続けます

We are a challenger  
that harnesses the power of science  
to improve the quality of life  
and create a safe, affluent society.  
We continuously provide new value and satisfaction  
to people, companies and society  
through our original and superior formulations  
and manufacturing technologies of multiple resins.

お問い合わせ先

この報告書の内容に関するご意見、お問い合わせは下記で承っています。

**リケンテクノス株式会社 経営企画室**

〒103-8438 東京都中央区日本橋本町3丁目11番5号

TEL : 03-3663-7996 FAX : 03-3663-7997

ホームページ

<http://www.rikentechnos.co.jp>

2012.10.1

